

「三条教則」関係資料（十三）

本号は

- 『三則童諭目安』 上田及淵 (明治六年十二月)
 - 『三条教則弁』 (著者未詳) (明治七年二月)
 - 『三章教憲和解』 高岡増隆 (明治七年三月)
 - 『教義要宗』 渡辺助信 (明治七年三月)
 - 『開化の本』 初編(抄出) 西村兼文 (明治七年四月)
- の五点を収める。

『三則童諭目安』 上田及淵 (明治六年十二月)

本書は一冊、版本、和装袋糸綴である。表紙題簽に「三則童諭目安 単」とあり、表紙見返しに「南宮上田先生講説 三則童諭目安 単 一人人間心得草 浪華書林 大野木市兵衛発兌」とあり、巻頭に郷社下宮祠官の岡直廬の「序」(二丁)、次いで本文十三丁が続き、本文末尾に「明治六年八月廿八日 岡山県上田公正塾講本 安仁神社祢宜御船寧氣補修」とあり、巻末に「明治六年十一月免許 同十二月上梓 著述 岡山県士族上田及淵 書肆版元 大阪心齋橋筋壹丁目大野木市兵衛 同山本政治郎 弘通所 備前岡山渡辺源米 同世良田益太郎 同富木徳得」とあり、計十五丁より成る。

著述者は、岡山県士族で岡山公正塾の主宰者上田及淵(号は南宮)である。また、本文末尾より、本書は上田及淵が講じたものを弟子の安仁神社祢宜御船寧氣なる人物が編集したものであることがわかる。

本書は、別名「人間心得草」とも称していて、一応は三条教則の衍義書と言ってもよいが、「出生」(以下六章の本)・「学問」(天理)・「業体」(人道)・「交際」(朝旨遵守)・「奉上」(皇上奉戴)・「国体」(愛国)・「知神」(敬神)の七項目に分けて論を展開しているところなどが特徴的である。
なお、翻刻掲載については、(財)大倉精神文化研究所蔵本に依った。

『三条教則弁』 (著者未詳) (明治七年二月)

本書は一冊、版本、和装袋糸綴である。表紙見返しに「三条教則弁 完」とあり、そのあと本文二十九丁が続き、末尾に「明治七年二月官許 京都書肆 西村九郎右衛門輯」とある。官許が二月なので、実際の印行は三月頃であっ

たかもしれない。

著者については、誰であるのか、本書には何の記載もないので判明しない。ただ、本文を見ると、第一条の敬神愛国の衍義箇所のなかで、「殊ニ我真宗ハ真俗ニ諦相取リテ開宗シ玉ヘハ、神恩皇恩ヲ荷フコト尤モ深厚ナリ。」また、「問云、我真宗往古ヨリ近時ニ至ルマテ、本山ヲ始メ、下小庵俗家ニ至ル迄、神明ヲ其家ニ祭祠スルコトヲ不許。爾ルニ今許サレタリシ宗意ハ、順時改易スレトモ害ナシトスルヤ。」と述べる箇所を見出す。したがって、この点よりみれば、著者は真宗僧侶であることが明らかとなる。そして、問答形式をとって、かなり詳細に論を展開しつつ、三条教則と仏教との会通を試みているのである。その理論的根拠として真宗教義の真俗ニ諦論を用いていることは明白であるが、それにしても仏教側からの衍義書としては、わりに分量も多く、内容もかなり詳しいのが特徴であるといえるだろう。

なお、翻刻掲載については、國學院大學「河野省三博士記念文庫」所蔵本に依った。

『三章教憲和解』 高岡増隆 (明治七年三月)

本書は、一冊、版本、和装袋糸綴である。表紙見返しに「稟准 権少教正高岡増隆述 三章教憲和解 明治七年三月、擁万閣蔵梓」とあり、次いで明治六年十二月、正二位教導職大教正三条西季知揮毫の題字「寒霧見光」(二二丁)があり、本文十三丁が続く。末尾に、明治六年十二月美作国住人の笠道契と実際の編集者であろう教王護国寺(京都、東寺)住職で、教導職中教正の日野覺宝の二名による「跋」(二二丁)があり、刊記に「大教院 御用 東京芝赤羽根山口屋佐七」とある。全十七丁より成る。

著述者は、跋に「隆公者黄備人也」とあるように、吉備国出身の真言僧、高岡増隆である。増隆は維新期の廃仏状況に対応すべく、明治初年に結成された仏教諸宗派連合の団体である「諸宗同徳会盟」の中心人物の一人で、高野山

明王院増隆として著名である。本書は、その増隆の口述筆記である。したがって口語体の形式で書かれている。又、本書の本文中、十二ヶ所にわたって頭注のかたちで笠道契による短文の注が付してある。収載に際して、この注は本文の該当箇所の右横部分に（ ）を付して並記した。

なお、本書はすでに一度『明治仏教思想資料集』（第三巻）に翻刻収録されているが、今回の翻刻掲載については、（財）大倉精神文化研究所蔵本に依った。

『教義要宗』 渡辺助信 （明治七年三月）

本書は一冊、版本、和装袋糸綴である。表紙見返しに「渡辺助信著述 奈流芳於芸校 教義要宗 文海堂発行」とあり、次いで、おそらく『中庸』中の一句「修_レ道之謂_レ教」から採ったであろう題字「脩道謂教」（二丁）が続く。そのあと本文二十三丁があり、末尾に図書広告「石村貞一著 国体大意 全壹冊」があり、さらに諸国弘通書肆として「東京北畠茂兵衛」以下、一三六の全国の書肆名を三丁にわたって掲載している。そのあと、奥付のようなかたちで「明治七年二月 同三月出版 著述天満社内渡辺助信 書肆 大阪心斎橋筋南壹丁目松村九兵衛」とある。全二十丁より成る。

著述者は渡辺助信で、大阪市北区大工町に鎮座する、天満の天神さん、として広く知られた天満宮の人である。

内容は、冒頭に「天地日月ヲ鎔造シ、云々」とあるように、神道人として田中頼庸の衍義書を範としたことは間違いないであろう。したがって、特別に渡辺独自の解釈という箇所は見受けられないが、全体的にはかなり詳細であるところなどが、本書の特徴と言えるかもしれない。

なお、翻刻掲載については、國學院大學「河野省三博士記念文庫」所蔵本に依った。

『開化の本』初編〔抄出〕 西村兼文 (明治七年四月)

本書は版本、和装袋糸綴である。巻頭に「形勢の方向を知て文明の歩を進め開化に趣く人」(文明)、「時変に腰を抜し陋習の為行路難に困却する人(旧弊)と題する口絵二葉を配し、棲霞生なる人物による題字「浚明亮采」が続く。次の本文項目は「王政復古の弁」(四丁)、「自由自立の権の弁」(三三丁)、「光陰の価に高下ある弁」(四丁)、「耐久の功勞は大業を起す弁」(三三丁)、「学者の僻は除きたき弁」(三三丁)、「人民に尊卑の別なき弁」(三三丁)、「夫妻の道は正しくすべき弁」(三三丁)、「文明の小国は未開の大国を管する弁」(三三丁)、「文明に夷俗と開化ある弁」(四丁)。「読書には目的を定むべき弁」(二二丁)、「開化に進まざれば恥辱を得る弁」(四丁)、「教法の弁」(四丁)の十二条目、計三十二丁より成る。末尾に「明治七年二月官許 同年四月刻成 発行書林 東京稲田佐兵衛 同村勘兵衛出店 名古屋粟田東平 同鬼頭平兵衛 浜松落合清七 大坂柳原喜兵衛 大津沢宗次郎 京都大谷仁兵衛 同辻本仁兵衛 同杉本甚助」とある。

著者は西村兼文で、内容は「開化のは那し」(抄出) 曲肱軒主人 明治五年冬、本「紀要」復刊第十七号に所収(済)と同じく、目次条目名から見ても、所謂典型的な開化物の類である。

この中で、最後の条目「教法せうほの弁」が三条教則に關連して述べた部分である。そして嚴密には衍義とは言いにくい部分もあるが、開化物のなかで三条教則に言及したものは必ずしも多くはない。よって關連の意をもって当該部分だけを抄出し、収載した。

なお、翻刻掲載については、國學院大學「河野省三博士記念文庫」所蔵本に依った。

凡 例

凡例については前号にしたがった。

(三宅)

〔本号の最初に置いた資料（三即童諭目安）上田及淵、明治六年十二月）は、本来は前号（第二十七号）の掲載予定で、目次および解題は前号に掲げたが、手違いがあり、資料部分だけが掲載できなかつた。よつて本号において再度、目次・解題を掲げた上で資料部分を掲載することにした。ここに手違いを詫びると共に、御寛恕を希う次第である。〕

『三則童喩目安』 上田及淵 (明治六年十二月)

序

野分きせし朝た、師の許に物しつるに、吾学兄なる御船寧氣既く来入て、此巻補修かてら、他諸書をら読叶の居り、おのれ側近く蹲侍て如何と云へは、師は打傾ふきて善くも訪へる者かな、昨夜はした無かりし雨風の書窓吹放ちたる、却くに怠りの塵を払ひて諫め顔なるは、と云ひ残して少し動座て、以伝西の極なる国々の人等の記せる書の中に、世界に希有しき云々の事ありて、此よなう羨しく心本無きやうなるを、いかて此国のをも互に挙試よと勇まるゝに、二人面相見して、恐るゝ曰しけらく、天地造化神の御正名の伝りたる、天統の今に絶賜はぬ其靈の神宝の天物、随に動揺たまはぬ、幽顕分界の御謀の豫き定りたる將殺為産の神算の了然なる、五元靈の本説の物より確なる五十神字の君爾位具りて、種々の定格天神命

に聊もと稍口敏らくを聞も終ず、片頬に咲て、然理や足れり、此はけに有難き珍しき御事等にて、吾が恒心に協へり、誠や此吹荒れたる庭の千草の物煩しき中より学科の三茎五もと撰出されたらむ心意して、本教の種子ともなるへき甚厳なる尊き条々にし有れば、疾く其数学の首に摘添へは、と催さるゝが辞かたきに、吾兄に式代しつゝ、有りのまゝ、を書つくるは、明治といふ御代の六と世にあたる年八つ芸にあたる月の廿余り九日の日

第一区郷社下宮祠官岡直廬

三則童喩目安 一名人間心得草

出生章第一 下六章ノ張本トス

此身ハ、何如シテ出来ル者ゾ。何ノ役ニ立者ゾ、能々心二問へ。是父母色欲ノ私ニ出来テ、唯所欲ニ世ヲ過グル者ナリ、ト云ヘバ事モ無ケレド、決テ父母ノ私ナラズ。先ヅ、懐胎ヨリ三十日過グレバ、悪阻病ニテ母ヲ劬勞シメ、父ノ心配大方ナラズ。中ニハ難産ニテ生死ノ界

二至ルモアレバ、容易ナラザル大役ナリ。偕産下シタル
上ハ、男子ヨ女子ヨト喜ビ収拳、日ヲ経テ生長スルニ随
ヒ、忙然中ニ眼モ離サレズ、夜ハ要哭テ寝ヌコトモ、
幾年ノ間ト思フゾ。父モ相共匍匐バ立テ、立テバ步行ケ、
ト引立ツル如ニ思ヒ、食物、衣物、足袋、草履マデ、至
レル世話ニ身ヲ忘レ、一方ナラヌ慈悲ナルゾ。其ハ人間
耳ナラズ。野末ノ雉子ハ、雛ノ為ニ身ヲ焚レ、軒端ノ鶴
ハ、子故ノ暗ニ惑ヒ、其外、蟻螻 畜獸マデ、夫婦親子
ノ恩愛アリ。是産靈神ノ仰セニテ。決シテ色情ノ私ナラ
ズ。况ヤ人間ト生レ来テ、吾レ父母ニ恩義ハナシ。生産
テ賜ヘト頼ミシ覚エモナシ。自分勝手ノ遣興ニテ設出
タルナリ、ト汚穢シキ大悪言ヲ吐等。悪ムベキノ大不孝、
聞スラ身ノ毛モ上衝ナリ。往昔、祖父、父、兄弟三人ハ、
稚ナ心ニ身ヲ没ゲ、父ノ罪ニ代リ徒奉公セム、ト
表 文ヲ捧ゲ、曾我兄弟ハ、雁ノ連ナリ飛ブヲ見テ、
悲慕ヒ、復讐ノ志ヲ固ム。何事ニ就テモ、孝行ハ徳ノ本
タルコトヲシルベキナリ。其レ孝ハ百行ノ首ニテ、是
ヲ君ニ移セバ忠トナリ、是ヲ兄弟朋友ニ移セバ友悌トナ
リ、是ヲ他人ニ移セバ愛敬トナリ、学問上達モ是ヨリ成

リ、家業繁昌モ是ヨリ出デ、終ニハ富国強兵ノ域ニモ至
ルベシ。且上古ヨリ百代前ヲモ親ト云ヒ、百代後ヲモ
子ト云ヒシ、神国ノ親キ風俗ヲ深ク思ヒ、誠ニ棄難キ、
天地自然ノ至性ナル事ヲ悟ルベシ。是ヲ知ルニハ学問ニ
如ハナシ。第二章ニ解ヲ見ルベシ。

学問章第一 天理ヲ述ブ

人、生レナガラニシテ知ル者ナシ。学問テ人ノ人タル
道ヲ得ルニ至ルベシ。夫レ学問ト云ヘバ、事煩カシキ様
成ドモ、我心得方ニテ、安ク為レバ安クモナリ、煩カシ
ク為レバ如何程モ煩カシク成ル者成レバ、先ツハ安キ方
タヨリ入初ベキナリ。偕学問ト云フコトノ言義ヲ考フ
ルニ、学ハ正語ハ、マネビト云ヒテ、真似スル様ヲ云
フ詞ナリ。問ハ師タル人ニ問求ルナリ。然レバ学問セ
ントテハ、天ノ日月游衛アリテ、万代不易造化ノ道、其
公運自転少シモ易ラヌ操ニ真似ビテ、己ガ心ヲ正直ニス
ルノ正鵠トシ、地ノ万物ヲ載セテ重シト為ザルヲ真似ビ
テ、吾ガ身体ヲ勞シ勉強レバ、財宝ハ身ヨリ涌出テ、不
自由ナキ道理ヲ悟リ、善人ノ所行ヲ真似ビテ悪人ノ所行

ヲ退ケ、如此シテ天地及善人ノ所行ヲ、日々ニ真似スルヲ学トハ云フナリ。右ノ外農工商ノ術ヲ始メ、千万ノ芸マデ、上手ノ人ニ馴從テ真似スルヲ、常ノ心トシ、問ヒ尋ヌルヲ修行ト心得、三神造化、二尊ノ邦制ヲ始メ、天祖皇孫ノ神勅ニ基キ、然後世界中ノ学規ヲ弘ク真似、我皇道ノ羽翼トナシ、上ハ君上ノ宸襟ヲ安ジ奉リ、下ハ万民ヲ一和シテ、内ニ皇国ノ見識ヲ張り、然テ世界一般ノ公法ニ悖ラヌ様、心得ルヲ以テ今日急務ノ学問ト云フ。業体是ニ於テ起ル。第三章ニ解ヲ見ルベシ。

業体章第三 人道ヲ述ブ

万葉集ニ云、「久方ノ、天路ハ遠シ、ナホクニ、家ニ帰リテ、業ヲシマサネ」注ニ、ナホクハ、尋常ヲ云フ。仏道ニ惑ヒテ家ヲ出デ、道学ニ惑ヒテ仙ヲシタヒ、神道ニ惑ヒテ神異ヲ頼ミ、儒道ニ惑ヒテ高驕リ、己ガ職業ヲ厭ヒテ勤メザル類ヒ、心ヲ天路ニ遺ル者ナリ。喰物ハ日々ニ消エ、衣類ハ月々ニ敝レ、家居ハ年々ニ損ハル。其上ニ妻子徒類アリ。人ハ各其稟得タル職業ヲ勉強ミテ、是ヲ補ヒ養フ者ナリト或人ノ言レタル誠ニ然ルコトナリ。

人ノ命ハ衣食住ニアリ。中ニモ食物ゾ第一等ノ重宝ナレバ、業モ農業ヲ第一ト心得、次ニ衣類、次ニ家居等ヲ営ム為ノ業体ナレバ、疎カニ思フ人ハアラザルメレド、博奕ヲ好ミ、飲酒色欲ニ耽リ、己ガ態々ナル風流ヲ好ムヨリ、大切ナル家業ヲ怠リ、未終ニ其身貧窮ニ陥リ、先祖代々ヨリノ産業ヲ失ヒ、妻子離散スルナドアルハ、其身一人ノ不幸ニハアラズ、国家ノ為大罪人ナリ、如何トナレバ、各々家々ノ業体備ハリ、海内ニ遊民ナクバ、是ヲコソ忠義トモ云ベケレバナリ。又農業ハ、此ノ中国固有ノ道ナル事ハ、天祖天照大御神、天狹田長田ヲ作り賜ハントシテ、天村君ヲ置キ、人民ニ産業ヲ勸メ、御口ニ繭ヲ含ミテ糸ヲ抽リ、蚕ヲ養賜フ業ヲ想像リ奉リ、怠惰ノ弊ヲ去リ、家ニ帰リテ業ヲシマサネ、ノ教詠ヲ拝吟シ、各其家ノ産業ヲ勉勵スヘキ事肝要ナリ。如此有バ交際ノ道愈々精シカラシコトヲ要ス。第四章ニ解ヲ見ルヘシ。

交際章第四 朝旨遵守ヲ述ブ

交際ノ道ハ国家ヲ維持スルノ大本ナレバ、是又疎略ニ思

ベカラズ。或人知己信友ヲ得マ欲シク、生涯心ヲ尽セレド終ニ得ズ、ト云ル話モアレド、今ハ然ル偏屈ナル交際ヲ謂ニアラズ。世界一般ノ人ト交リテ、支吾セヌ広大ナル交際ヲ言ナリ。広大ナル交際ニ支吾セヌ様ニ爲トナラハ、葛城ノ一言主神ニ誓ヒ奉ルベシ。此神ハ善事モ一言ニ、悪事モ一言ニ、言ヒ放ツ神ニテ、天ニ事代、空ニ事代、トサヘ賜言シ給ヒケリ。此事代ト云詞ハ、言信ト云義ニテ、即テ信ト云事ナリ。信トハ嘘ツカヌ事ナレバ、嘘ツカヌヲ以テ我見識ト為レバ、即チ信トナルナリ。己ニ信備ハル時ハ、外ニ知己信友ヲ求ルニ足ラズ。朋自ラ遠方ヨリ来ルベシ。然レバ世界一般支吾ナキ広大ナル交際ノ道ハ、信ノ一ツニ限ル也。今新代ノ御掟トシテ、四海兄弟ノ思ヒヲ為、ト仰出サル、上ハ、交際ノ道ハ愈々手厚ク心得、互ニ信ヲ尽シ合ヒ、助ケ助カル人間ノ身ノ上ヲ悟ルベシ。其交際ハ譬バ城ノ石垣ノ如キモノニテ、此石ノ尖頭ハ、彼ノ石ノ凹処ニ突入シ、缺タル石ノ相手ニハ、張出タル石ヲ組合セ、互ニ石ト石トノ信ヲ以テ相交リ、其形状ヲ論ゼズ、築立タル上ハ、全体ノ石垣普請成就セリト謂ツベシ。然レバ缺タル石ナ

リトテ、全体ノ中ヨリ一ツニツ抜キ取ラバ、則崩レテ全カラジ。交際ノ義モ亦同道理ニテ、偏僻タル人モ此方ノ信ヲ以テ助ケ交リナバ、是即チ四海兄弟トナル道ニシ有メレバ、信也者四海万国兄弟トナル、交際ノ媒ナリ。人間ニ信ナク、嘘偽以テ交際ハ、四海万国ハ勿論ナリ。一村ノ内モ仇敵ト成ベシ。如レ此テハ父母ト座坐ス。君上ノ宸襟モ安カラズ、互ニ稜ヲケヅル悪風俗ニテ、此上モナキ国耻ナリカシ。一分ノ信ヲ脩ムルゾ、人間須有ノ心得ナル。嘗聞東洋ノ外ニ共和国有テ、世界第一ノ文明開化ノ名称ヲ轟動カセリ、ト云フモ信義ノ外他アルニ非ジ。彼新世界スラ信アレバ此ノ如シ。况ヤ此大故国、開闢以来天祖皇統ヲ垂レ賜ヒ、臣民ノ上ニ座坐シテ、天地ト共ニ動キ賜ハヌゾ、信義ノ大ナル極ニテ、上下素ヨリ信義厚カリシ風俗ナリ。此ノ如ク信アル国風ナレハ、嘘偽ノ悪弊ヲ生セシテ、人間交際ノ道ヲ、一言主ノ古ニ立復リ、言語ノ上ニ信アランコトヲ欲ス。然セバ坐ナガラ文明開化ノ神域ニモ至リナン。奉

上ノ義是ニ於テ立ベシ。第五章二解ヲ見ヨ。

奉^{ツカヘマツリノケダリ}上^ノ章第五 皇上奉戴ヲ述ブ

世ニ沿革アルハ、落葉ノ秋アレバ、又陽春ノ青葉ヲ見ルガ如ク、一度ハ栄エ一度ハ衰フル。万事勢ヒニ從^シテ改マル者アリ。此者皆枝葉花実ノ動揺ナリ。又不動ナル者アリ。不動ハ中極ナリ。至尊ナリ。大天地ノ中心ニ沿革アル事ナク、大地ノ軸心モ亦不動ナルヲ見テ知ルベキナリ。枝葉花実ニ榮枯アリ。車輪ノ常ニ転用スルヲ見テ、中極至尊モ沿革動揺盛衰榮枯アリ、ト思フベカラズ。畏リ多クモ天皇ハ、人間万類ノ御主宰ニテ座坐スナリ。其御主宰ト座坐証拠ハ、高天真中ニ大座坐ス造物主、御名ハ天之御中主命ヨリ、大統連綿タル、天祖天照大御神ヨリ、授カリ賜フ三種ノ神靈ヲ御所持遊バスニテ明カナリ。然レバ天皇ハ、地球上人間万類ノ中極軸心、至尊不動ニ座坐セバ、仕ヘ奉ル臣民ハ、時ニ榮枯アリト雖モ、車輪ノ転用スルガ如ク、寸陰ノ間モ王事ニ尽スノ心、忘却シテハ叶ハヌ事ナリ。他ノ帝王公候ノ中ニモ、天祖ノ神靈ヲ奉持セル、造物主ノ大統アリヤ知ズ。如レ此有至尊ノ座坐ス事ヲ知ズシテ、文明開化ヲ称フルハ、真ノ文明開化ニアラズ。早ク中極至尊ヲ奉ジテ、真ノ文明開化ニ至ラ

ン事コソ有マ欲シケレ。国体ニ於テ立ベシ。第六章ニ解ヲ見ヨ。

国体^{クニノリノケダリ}章第六 愛國ヲ述ブ

造化ノ三神、大天地ノ極ヲ立賜ヒ、続テ大父母ニ靈大地ノ潮礁^{ウシホツハヘ}ニ拠テ、国土ヲ産出シ賜ヒ、又人類万物ヲ蕃殖シ、是ガ為ニ主宰ヲ立賜フ。日球ノ主宰ヲ天祖ト申シ、地球ノ主宰ヲ天孫ト申ス。各々尊号ヲ立賜フナリ。如レ此テ地球ニ万国アリ。西客是ヲ大別シテ六大洲トス。我大日本国ハ、亞細亞ノ東頭、地類弁蒂ノ処ニ位シ、其地形大ナラズ小ナラズ、天孫皇居ノ地ナリ。故ニ天祖ノ神廷アリ。其確証タル事ハ、天祖ヨリ授与シ賜フ、三種ノ神器ヲ奉持シ、皇統代々伝賜フヲ以テ証明トスベシ。是吾国体ヲ立ル基本ナリ。然リト雖モ君主禮制、君主專治、ナド云フ弊害アル国体ニ髣髴タルヲ以テ、吾国体ナリト心得ベカラズ。固有君民同治ノ御政体ナル事ハ、天祖皇孫ヲ、豊葦原ノ中ツ国ニ天降シ任シ賜フ時ニ、天之安河原^{カハラ}ニ群神ヲ集ヘテ、神議^{カミハカ}リ賜フゾ、万代不易ノ邦制ヲ立賜フ所ニシテ、所レ謂君民同治ノ御基本ナル事ハ、今

更論ズベキニ非ズ。合衆政治ノ邦制ナドハ、其理便ナリト雖モ、皇国ニ曾テ施スベキ政治ニ非ズ。其ハ如何トナレバ、天皇ハ造化三神ノ御正統タル、天祖ノ皇胤ニ座坐シテ、天ノ中極、地ノ軸心ト等シク、人間万類生トシ活ケル者ノ靈長タル、大君ニ座坐セバ、他ノ帝王公侯ノ比較ナラズ、地球ノ無上尊ナレバ、大君ニ対シ奉リテハ、背キ離ル、事能ハザルノ道理ナリ。是国体ヲ立ル基本ナレバ、臣民謹デ本末ヲ乱ルベカラズ。知神之心モ是ニ於ヤ固カルベシ。第七章二解ヲ見ヨ。

カミナラヒノクケリ
知神章第七 敬神ヲ述ブ

人間ノ心得置ベキ事ドモハ、数々有ルベキヲ、今日誰ガ身ノ上ニテモ、必忘ルベカラザル事ノミ、課題ヲ設ケテ誌シ見ルニ、何ヲ種子ト云フコトハ無ケレド、先ツ人間ハ何為ントテ、現世ニ生レ出シモノゾ、ト疑ヒヲ発起シ、学問ヒテ、其道理ヲ弁ヘ見ルニ、衣食住ノ三事件アルユエ、業体ヲ定テ、一身ヲ保護ベキ心得ヲ為シ、一身ヲ保護ニハ、一分ノ私ノミニテハ保護ガタク、人ハ人ノ助ヲ得テ、相助カルノ道理アルニヨリ、他人交際リヲ

程能クシテ、四海兄弟ノ思ヒヲナセバ、天下擾乱ノ憂ナク、天下安泰ナルヲ以テ、君上ヲ奉ジ、而テ後固有ノ国体ヲ愈々堅固シテ、他ノ凌侮ヲ受ザル様、心得置ベキ事ナリ、ト思ヒ続ル随ニ、感格スル事アリ。歌ニ、「生レ来ヌサキモ生レテ来シ今日モ死ルモ同シ神ノフトコロ」ト詠メルハ、造化三神ノ御盛業ヲ思ヒテ詠メル者ニテ、実ニ然ルコトナリ。西客ノ敬天説ニモ、凡ソ宇宙ニ万物アル、天アルノ証ニシテ、天ハ即チ造物ノ主ナリ。夫千種万類ノ創造ヨリ、日月星辰ノ空ニ懸リテ旋轉シ、人獸草木ノ地ニ在テ、生動スルニ至ルマデ、皆各々自カラ為ニ非ズシテ、皆天ヨリ出ルナリ。譬ヘバ猶佳麗ノ園庭、奇巧ノ家室ニ入ル者、必ズ老手ノ園丁之ヲ修メ、最良ノ匠人之ヲ建ルヲ知ルガ如ク、苟モ此世ニアルモノ、此宇宙万物ヲ創造シタルハ、皆至靈至妙ノ天工ニ因ルコトヲ、知得セザル可ラズ。是ニ敬天ト云ヘルハ、今吾説ク処ノ知神ノ章ト同ク、人間万類悉々皆々、生動セシムル根元ノ物ヲ、敬礼セシムルコトヲ教ヘタルナリ。然ルニ其万物ヲ活動セシムルモノヲ天ト云ヒ、天ハ即チ造物ノ主ナリト云ヘル。此語ヲ以テモ神教ノ、追々地球一般ニ精達

スルノ近キヲ悦ブ。所レ謂近シトハ、此説天ハ造物ノ主ナリトノミニテハ、譬ヘバ官庁アル事ヲ知りテ、未ダ官中ニ知事アリ。其知事ハ何デフ誰、ト云フ名称ヲ知ラザルト同ジケレバナリ。此処ニ所レ謂造物ノ主タルモノヲ、赤峯州ノ古伝ニハ、上皇太一、天始元尊ト称シ、印度ノ古伝ニハ、梵天王トマデハ称シタレド、共ニ造物主様ノ御実名ニハアラデ、御異名ナルベシ。吾皇国ノ御正統タル、天孫ニ御伝ヘ遊バサル、大御名ハ天御中主命、御補佐高御産巢日命、神御産巢日命、此三柱神ヲ造化三

神ト申奉ルナリ。即チ彼ノ説ニ造物ノ主ト見エタル如ク、日月游衛ノ旋転ハコビヨリ、人獸草木ノ活植イキハエマデ、御支配遊バズ大御神ナリ。此神徳ヲ知り、常ニ敬礼ノ心ヲ懐クヲ專要トスベシ。即教省ヨリ、教職ニ授ケ出サル、三条ノ御教則ノ第一条ニ敬神トアルハ、是等ノ義ナルコト、刮目拜誦シ奉ル可キコトナリ。猶云ハ、五元ノ神ハ、メラスリ人生一日モ無ルベカラザルノ至要タルコトヲ知り、禍津マガツ日直日ノ二神アリテ、勸懲ノ道アル事ヲ知り、月読命怒ヒナホビリテ、保食神ヲ斬給ヒシヨリ、衣食住ノ道立テ、人民生活セルノ蘊奥ヲ知り、其他諸事万端、世間ノ有ルベキヤ

ウハ申スニ及バズ、人ノ生ル、本ヨリ、死シテ後魂魄ツカサドノ行方マデ、一ツトシテ神ノ関ツクカリ賜フ業ニアラザルハナシ。是ヲ造化神ノ御正統タル現人神ノ、万民ノ為ニ掌ツカサドリ賜フガ故ニ、幽ヨリ諸神一和シテ、其御政事ヲ助ケ奉リ給フナレバ、聊モ天朝ノ御趣意ニ違ヒ奉ラヌ様ニ、ト心得ルゾ神ノ道ヲ知ルトハ云フナル。

明治六年八月廿八日

岡山県上田公正塾講本 印

安仁神社禰宜御船寧氣補修

三条教則弁

王政御一新ノ際ニ当テ、翕然トシテ衆庶ノ惑フ処ヲ考ル
ニ、万国交際ノ御旨々ハ吾神国ノ神威ヲ輕シテ国体ヲ愛
護シ玉ハザルカ如シト。途上ニ誹議スル処、胸中ニ怨望
スル処聞トシテ爾ラザルハナシ。教部省ニ教導職ヲ設ケ
ラレシハ、専ラ此疑惑ヲ去テ開化ノ域ニ誘ハシメンガ為
ニ、三章ノ教旨ヲ定テ、説教ノ基本トシ玉フ意趣ヲ可レ
知。先万国ニ和親ノ約ヲ定メ、百事維新ノ制ヲ立テ玉フ
ハ、朝廷ノ定理ヲ追テ威信ヲ宇内ニノベサセラル、処ニ
シテ、此即神国ヲ敬愛シ玉フノ御旨趣ナルコトヲ体認ス
ヘシ。第一条ノ意トスル。爾ル二人又爰ニ疑ヒアラン。
云ク、若国ヲ敬愛シ玉ハ、何ゾ鎖港攘夷ノ御処分ナキ
ヤト。此ヲ論スニ云ク、生々代々ノ天理ニ准シ、隨時制
宜ノ仁道ヲ行ハズンバ、風俗ヲ美ニシテ人事ヲ便ニシ、
国家ヲ富強ナラシムベカラズ。此故ニ開化日新ノ方法ヲ
以テ、民ノ知識ヲ拡充セシメ、利用厚生ノ処ヲ得セシメ
テ、敬神愛国スルハ、是即天理ノ俣ノ人道ナルコトヲ明

カニスベシトナリ。此ヲ第二条ノ意トス。爾ルニ、人又
爰ニ疑ヒアラン。云ク、已ニ和親交際ヲ以テ天理人道ト
セバ、中外彼我ノ情ヲ離レテ、各国互ニ自他ノ君主平等
看過スヘキヤト。コレヲ論スニ云ク、万国和親ハナスト
云ヘドモ、皇国改メテ外国ノ付属トナルニ非ズ。神民初
テ神恩ヲ離ル、ニ非ス。皇民ハ依然トシテ旧ノ如ク皇民
タリ。神州ハ自若トシテ動セス。神州タリ。何ソ民ノ父
母タル、吾皇上ヲ奉戴セサルヘケンヤ。此義ヲ味テ蒙昧
ヲ開曉シテ革ニ除旧弊一シテ、朝旨ヲ厚ク^{マヤ}耳ンジテ遵
奉セシムル、此ヲ教導ノ専務トスベシ。此ヲ第三条ノ意
トス。去バ、三章ニ六旨アリ。六旨ト云ヘトモ其実ハ一
教ナリ。一教三章六旨ニシテ、後々ハ前々ノ疑團ヲトキ、
前々ハ後々ニ落着セシムルノ用意ナリ。朝旨已ニ如レ是
万民尊奉シテ敬神国等ノ分ヲ釈シ、更ニ研究ノ為ニ此ヲ
稽フルニ、古ハ云、天地ハ生ノ本ナリ。先祖ハ類ノ本ナ
リ。君師ハ治ノ本ナリ。是ヲ大道ノ三本ト云。今ノ三教
アリテ彼ノ三本ニ合ス。云ク、第一ノ敬神愛国ハ類ノ本
ヲ知ルナリ。我皇国開闢ノ大古、初メニ天之御中主神、
高御産巢神、神産巢神アリ。其神徳ヲ受テ生シ出マセル

神ニ天神アリ。地祇アリ。独化ノ神アリ。耦生ノ神アリ。伊邪那岐ノ神アリ。伊邪那美ノ神ニ至テ男女交合シテ国土ヲ生シ、又地水火風ノ神、草木ノ神、八百万神ヲ産ミ玉フ。其神ダチ子々孫々ト相續シテ、終ニ今日ニ至ル。爾ルニ其天之御中主ノ神ヨリ鷓鴣草葺不合命ノ御世迄ヲ神代トシ、神武天皇ノ御代ヨリ已後ヲ人皇ト云。是即チ古事記日本紀等ノ上ニ分ル処ナリ。此神代ト人世ト交際ニ付テ、聊カ説論アレトモ、今ハ此交際略ス。カク神人ト差別スレトモ、其類々非別不思議ナル所作多カリシ代ヲ神代トシ、凡ソ後世ノ有状トイタク変リナリ。一新セル御代ヨリヲ人代ト云ヘシ。而シテ其神代ヨリシテ君統ノ臣別ノ神ナリ。其国史ニ付テ知ルヘシ。現今ノ人種ニ其君臣ノ神ノ末棄アリ。又応神天皇ノ御代コロヨリ已後、外国ヨリ皇朝ニ帰化シテ妻ヲ迎へ、子ヲ産テ蕃息スル人間アリ。故ニ姓氏録ニ、神別、皇別、諸蕃別ト姓氏ヲ列ネ玉フ。其中神別ト云ハ元ヨリ神裔ナリ。皇別ト云モ近ク天皇ヨリ別レ出タル姓ニシテハアレトモ、其天皇モ本ト皇太神ノ御裔ナレハ、皇別モ亦神孫ナルコト論ナシ。又諸蕃ト云モ、或ハ三韓、或ハ支那ノ秦漢等ノ血統ナル

モノモ有レトモ、皇國ニ帰化シテ姓ヲタマハリテ臣ノ列ニ入り、又其妻妾ハ皇國ノ人民ナレハ、終ニ其子孫ハ皇國ノ血脈トナレル事亦シルヘシ。去ハ当今万国御交際、中外雜居ノ秋ニ当テハ、其神胤神孫ナルモノハ毎戸ニ吾祖先ノ神号ヲ奉祭シテ、開闢統御ノ恩、國家經營ノ恩、源流相續シテ恩ヲ報シ、神州神裔ノ身分ヲ表セスンハ有ヘカラス。コノ類ヲ知テ遠ク恩源ニ答スル大道ナリ。是カ為ニ第一条ナクンハアルヘカラス。第二ノ天理人道ハ生ノ本ヲ知ルナリ。皇國ノ古伝ノ説ハ天地、神人、禽獸、虫魚、草木土石、水火金玉ヨリ森羅万象ミナ委クムネヒノ神ノ靈徳ヨリ生成スト云。爾レトモ其神徳ニヨリテ生スル処ノ万物ノ源素、皆天地ニ存シテ時ヲ追テ生々化々スト云ヘシ。基本ハ神々ナルモ、直ニ万物ヲ生スルハ天地ナリ。カク天地ヨリ万物ヲ生スルト談スルトキハ現前ノ事相ニ親シ、支那、印度、西洋諸國ノ所説ニモ亦甚タソムカス。既ニ天ヨリ生スル人ト知ルトキハ、満ルヲ欠キ、足ラサルヲ補シ、循環無究ナル天理ニ則リテ人道ヲ行フヘキナリ。此生（つひ）□本ヲ知テ近ク大化ニ則ルノ公道ナリ。此カ為ニ第二条ナクンバアルヘカラス。第三条、

奉戴皇上、遵守朝旨ハ治本ヲ知ルナリ。天皇ハ天神此ヲ産ミ、天祖皇統ヲ伝ヘ、天孫受テ是ヲ治ム。皇脈一系万代不易ノ天壤ト共ニ極リナシ。幾千歳ノ春秋モ、猶シ一日ノ如ク爾リ、上ニ擊壤ノ化アリ。下ニ鼓腹ノ楽ミアリ。其間ニ同等、権ヲ争ノ乱ナキニ非サレトモ、誰カ一人神器ヲ覬覦スルノ念ナシ。是他ナシ。国土、人畜、水火、草木、天神是ヲ産ミ、大祖是ヲ統ヘ、天孫是ヲ有シテ国土ハ是皇上ノ国土ナリ。衣食ハ是皇上ノ衣食ナリ。王土ニ住シ、王物ヲ衣食スル、万民皇上ヲ奉戴シ、朝旨ヲ遵守セスシテハ、夫誰ニカヨラン。彼ノ民ヲ尊トシ、君ヲ輕シトシ、陽ニ聖賢ノ徳ヲ蔽テ、陰ニ篡奪ヲ以テ天与人婦代徳革命ノ名ヲ立ルト曰フシテ語ルヘキ国体ニアラス。去ハ皇国ハ一君万臣ニシテ、君ヲキミト和訓スルモ王家ノ子ト云意ナリ。彼ノ詩ニ所謂普天ノ下無非王土率土ノ濱モ、無非王臣トアルモ、皇国ニアリテハ言ノ俣ニ説クヘシ。孟軻説ノ如クニハ有ヘカラス。爾レハ、即皇上朝旨ヲ君臣ト遵奉スルハ、此治ノ本ヲ知テ深ク仁政ヲ仰キ忠臣スヘシ。此カ為ニ第三条ナクンハ有ヘカラス。カク三本ヲ知ルヲ、即チ大道ヲ知ルト云。此他ノ愚民ニ

示スヘキ三節六芸モ、三千ノ威儀、八万ノ綱行モアルヘシト云ヘトモ、皆一区小径ナレハ、時ニ随テ具略アルヘシ。苟モ教導ノ職ヲ冒シ、説教ノ場ニ望ムヘキモノ、カクヘカラサル旨趣ハ、唯此ノ三条ナリ。大略如此後ニ各章ニ付テ別尺セハ、
第一条ノ中ニ、敬神トハ、禁秘御鈔ノ開卷第一ニ、凡ソ禁中ノ作法ハ、先神事後ニ他事、且暮敬神ノ叡慮懈怠ナシトノ玉フヘク、敬ニ爾雅ノ尺名ニ敬言也ト云、荀子ノ強国ノ註ニ、敢テアナトラサル也ト云、史記皇帝紀ノ正記ニ、猶恭勤ノ如シト云ヘリ。サレハ己レヲ恭テ、其向ヲ処ヲ敢テ慢ラス、恭シク勤ルヲ敬ト云。和語ニイヤマヒト云。イヤハ礼ナリ。古事記続日本紀等ニ無礼ト書テイヤナシトヨミ、日本紀ニ神礼賢礼ト書テ神ライヤラ、賢ライヤラト読。又恭又敬ノ字ライヤマヒト読リ。又ウヤマヒトモ云。景行天皇紀ニ無礼ト書テ無敬トヨメリ。ウヤナシトヨメリ。ウヤノシ杯トノウヤト同シ。マヒトハ形容ノ助字ナリ。不測ニ名ク。和語ニカミト云。此カミト云語ニ異議多シ。其中カミハカヒノ転シタルト云ヲ正義トス。委クハ別記ノ如シ。此神ニ体字アリ。用字

アリ。其体字ハ、皇朝ニ天神地祇ナトアル神ノ字、支籍ニテハ書經ニ、治々馨神明感スト云ヒ、春秋伝ニ莊公三十二年ノ下、神ハ聰明正直ニシテ、一ナルモノナリ。人ニ由テ行ナハル、ト云ヒ、是ヲ敬スルコト神明ノ処トアル神ノ字是ナリ。実体アリテ幽冥ヨリ賞罰ヲ現顯ノ世ニ降シ玉フモノナリ。其用字トハ、皇典ニ神劍神龜杯トアル神ノ字、支籍ニテ神奇神妙ナト、云ヘル字義枚挙ニ遑アラス。尺典ニモ神力威徳ナト、云ル文、数ルニ不堪。是尺不測ノ徳用ヲ形容スルノ贊字ナリ。爾ルニ、今敬神トアルノ神ハ、所謂体字ニシテ天神地祇トアルノ神ナリ。而シテ神ヲ挙テ祇ヲ兼ヌ。地祇ハ敬スルニ足スト云意ニハ非ス。何ヲ以テ是ヲ知ル。曰ク、古事記ニ水垣ノ宮ノ段ニ、又伊迦賀色男ノ命ニ仰セヲ天ノ八十毘羅羅ヲ作りテ天神地祇ノ社ヲ定メ奉ルトアリ。日本紀ニハ是天神地祇トモ天社国社トモ云ヘリ。社ノ字ノコトハ今弁スルニ遑ナシ。又神祇令ニ、凡ソ天神地祇ハ神祇官ニミ□常典ニヨリテ是ヲ祭ルトアルヲ、同ク義解ニ天神トハ、伊勢山城、賀茂、住吉、出雲ノ国造カ、斎ク神等ノ類是也。地祇トハ大三輪、大和ノ葛城ノ神、出雲ノ大社ノ神等ノ

類是ナリトアリ。此ニ出雲ノ国造カ斎ク神トハ、出雲ノ熊野ノイヘル須佐之男ノ尊ナリ。大社ノ神トハ杵築ノ大社ト云。サレバ天神トハ天ニマシ／＼神、又天ヨリ降リ在セル神ヲ申スナリ。地祇トハ此国土ニマセル神ヲ申スナリ。令ノ義解ノ疏ニ曰ク、天ヨリシテ降りマセル神ト云ヒ、地ニ付テ顯レ在ルヲ祇ト云フト云リ。古令已ニ如レ是地祇亦豈輕忽スヘケンヤ。問、其神明万国ニミナアリ。支那ニテハ、前ニ引処ノ左氏伝、莊子、抱朴子ニ神仙ヲ云ヒ、印度ニテハ、金光明経等ニモ諸神ヲ挙ル。西洋ニモ新旧両約全書、天道溯源等ニ神人ヲトク。恭敬スル処ハ、抑彼等ニモ及ヤ。答、今云処ノ神トハ、外国神仙等ヲ指スニ非ズ、本ヨリ我皇国ノ神祇ニシテ、正ク天祖ヲ指シ、兼テハ君統神列ノ諸神、式内、式外、官幣、国幣、府県、郷社等ニ祭祀シ奉ル処ノ大小一切ノ神祇ヲ云。而シテ上一人ヲ初メ奉リ、憶兆ノ蒼生ニ至ルマテ、必ス恭敬セスンハアルヘカラス。所以ハ云何。云ク、天祖皇大神ハ万乗ノ遠祖ニシテ、憶兆ノ依頼スル処、諸神ノ中ニ在テモ無上至尊ト崇奉シ玉フ。其父神スラ貴御子ト称贊シ玉ヒ、終ニ其祖神ノ命ヲ承テ天日ヲシロシ

メシ、今ニ至ルマテ現ニ下土ヲ照臨シ玉へ、人畜、草木、其恩頼ニ依ラサレハ、片時寸刻モ自存スルコト得ヘケンヤト。又須佐之男ノ尊ノ暴行ヲ厭ハセラレ、天ノ岩戸ニカクレ玉ヒシヲバ、蒼生ノ明ヲ失フコトヲ憂テ、八百万神謀計百端ニシテ、是ヲ招誘シ奉レリ。其無上至尊タルコト仰テコレヲ可レ知ナリ。爾リトイヘトモ、人或ハ是ヲ疑ハン。支那、印度、西洋ノ諸国ニモ、各大古日月ノ源始ヲ示ス説アリ。ミナ荒唐ニ巨ルカ故ニ、常人スラ猶是ヲ聞テ疑議冷笑シ、信トスルモノ希ナリ。况ヤ議者ニ於テヲヤ。皇国ノ古伝、亦爰ニ不レ類ヤト。今実ニ然リ。爾リトイヘトモ、天ノ後ニ生レテ天地ノ原始ヲ知ント欲セハ、古典ニ依ラサルコトヲ得ス。而シテ各国ミナ古典アリテ、彼ハ彼ノ国ノ古典ニヨリ、我ハ我ノ古典ニ依ル。其真偽得失ヲ糾正セシニ、誰カ有テ當時ヲ現見シテ我ニ語ランヤ。又今以テ古ヲ疑フモノハ、共ニ古ヲ語ルニ不足。日本紀ノ私記ニ云ク、漢家ノ風儀ハ日域ノ古事ト史書ノ註スル処ミナ比擬シガタシト。伊勢ノ人龍氏ノ曰ク、日神、月神、人神ト人ノ形アリ。身ニ光明ヲ帯ルモノナリ。外典ニ説ク、陰陽ノ精ナルモノニ非ス。仏説ノ日天

子、月天子ナルモノナリ。日月二天子其形人ニシテ、仏会ニ來臨シテ説法ヲ聞ケリ。今時神書ヲ説モノ日神月神ト、懸空ノ日月ト各別ノ解ヲナセリ。未タ古人ニ其説ヲナスヲ不聞、誰カ是ヲ信セン哉トイヘリ。悉クハ別記ノ如シ。サテ無上至尊ノ皇大神ノ外官幣ノ少神モ本社別社ハアルヘシト云ヘトモ、其神体ニ於テ別アルニ非サレハ、皇上ノ崇敬シ玉フ処、府県存立セシメ玉フ処ノ神社ハ、敬シテ能ク推尊スヘシ。其不レ可レ祭ノ淫祀ニ於テハ宜ク是ヲ選ンテ、去テ恭敬スヘカラス。問、其是ヲ恭敬スル札云何。答、廟堂ノ札アリ、官掌ノ札アリ、廟堂ノ札ハ甚タ高シ。憶兆ノ能ク得テ習フヘキニ非ス。且ツ是ヲ顯スコト、豈憚リナカランヤ。官掌ノ札式ハ其甚タ重シ。定テ神祇堂ノ管長ヨリ其門下ニ指受アルヘシ。常人ノ知ル処ニ非ス。神前ノ供饌、奉幣、祝詞等モ神祇式ヲ始メ、公私ノ諸書ノ説アレトモ秘事口伝アルモ難レ斗、其職ニアラサルモノ、猥リニ差定スヘカラス。仏前勤式猶爾リ。准シテ是ヲ思フヘシ。問、己ニ此頃官庁ヨリ皇大神ノ大麻ヲ万性ニ配賜アリテ、毎戸清潔ノ地ニ祭祀スヘキヨシ命アリ。我本山ニモ令ヲ布テ、(マ)一今般伊勢御

神号、家毎ニ配賜ニ相成条、一宗門徒中ニ於テモ拝受ハ勿論、御国風ニ候ヘハ、毎戸神壇ヲ設ケ、尊重敬礼致シ、王法為本ノ宗規ニ悖サルヤウ慇懃教諭致スヘキ事ヲ示シ玉フ。サレハ緇素ノ差別ヲ云ハス。拝受安置シテ後、日夜敬礼ノ儀式ト云。何ソヤ礼楽形改ハ天子ヨリ出ルト云。若朝命アリテ其法式ヲ令シ玉ハ、謹テ其礼ニ隨フヘシ。私ニ制スヘキニ非ス。若別ノ法令ナキトキハ、唯自宗ノ旧例ニ隨ヒ、報恩ノ思ヒニ住シ、尊重敬礼シ、挥手稽首スルモ、心志容儀在スカ如キ誠ヲ尽スヘシ。其余尋常ノ出行ノ折ニモ、若神祠ノ前ヲ過ルコトアラハ、慇懃ニ低頭跪拜ノ礼ヲナスヘシ。苟モ如レ此平素臨時ヲ論セス、内外明暗ヲアラハス明神ノ照覽ヲカシコンテ、能ク誠忠ヲイタサハ、争テカ神慮ニ契ハサラン。方域ニヨリテハ、或ハ一郷一郡ノ惣神社アリ。是ミナ其本ハ其郷、其郡等ニ神社ヲ立ヘキヲ、恩義因縁アリテ祭祠セルモノナルヘケレバ、必ス疎遠ノ情ナク隨時隨分ノ奉幣参拝、其地ノ風儀ニ准セスンバアルヘカラス。其物社ノ祠官掌ノ例月例日ニ在家ニ廻リテ禊事ヲ修スルコトアラハ、必ス嫌忌ノ色ナク、是ヲ迎テ氏子ノ例ニ漏ルヘカラス。是

社職ニ阿諛スルニ非ス。唯是氏神ノ恩ヲ報スルナリ。更ニ謗ルコトナカレ。因云、氏神トハ、己カ姓氏ノ祖先ニ限ルコトニハ非ス。其故ハ、光仁天皇紀、宝龜八年七月下旬ニ、内大臣藤原朝臣良繼病アリ。其氏神鹿嶋ノ神ヲ正三位、香取ノ神ヲ正四位ニ除ス。アレハ藤原氏ハ天津兒屋根ノ命ノ御裔ナルヲ、鹿嶋ノ武分尾槌ノ神、香取ノ経津主ノ神ヲ指テ氏神トシルサレタリ。世継物語ニモ鎌足ハ常陸ニ生レテ鹿嶋ノ氏神ナリト云ヒ、神宮雜例ニモ中臣ノ神社、鹿嶋神宮香取ノ神宮トアリ。サレバ氏神ト云ニ二ツアリテ、弁ヘテハ其姓氏ノ祖先ヲ云ヘトモ、其産土神ナトノ故アリテ、専ラ祭ル神ヲ云ナリ。夫ハ氏ト云類アリ。藤原氏ニテ鹿嶋香取ノ神ヲ氏神ト云ハ、其産土ノ神ナル由ナリ。問云、先ニ云処ノ如ク、鷓鴣草葺不合ノ命迄ヲ神代ト云、神武天皇已後ヲ人皇ト云。歴代ノ天子ヲモ神ト祭ルノ神多シ。八幡宮白峯ノ宮等、人ミナ知ル処ナリ。已ニ神ニアラザルヲ神トシ、祭ルハ、即是淫祠ナルニ非スヤ。答、汝不知ヤ、歴代ノ天子ハミナ神ニ在スコト、古今ノ史集ニ昭々トシテ、犬ヲ追ノ兒童モ、皆是ヲ云。我国ノ雅語ニオフキミノ□詞ハニ、一

秋津神ト云頭神ノ義ナリ。大君ハ神在セハ杯ヨメル歌、
万葉集等、其類數ヲ不知。独リ天皇ノミナラス、親王諸
王諸臣ノ列ノ人ト云トモ、功德感スヘク、恐ルヘキハ、
ミナ神ト配シテ祭祠シ玉フナリ。日本武ノ尊、菅原ト云
等ノ如シ。皇国ニテカミト云ハ、上ニ論スル如ク、神靈
不測ナル而已ナラス、威徳功名アリテ感スヘク、恐ルヘ
キモノヲ、ミナ、カミト云。伊邪那岐命ノ御頭ノ王桃実
ナトニモ神号ヲ施シ玉フコト神代記ニ見ヘタリ。雷ヲ鳴
神ト云ヒ、狼ヲオフ神ト云カ如キモ、威勢恐ルヘキヨリ
名ツケタリト聞タリ。神祇杯ノ字ヲカミト訳スルヲミル
ニ、其大概ヲ以テ云ヘルマテ、敵対正翻トモナシカタシ。
已ニ上ニモ云如ク、鷓鴣草葺不合ノ命已前ハ、各其所作
通途ノ人情ノオモテニ出テ、不測ナル事多ケレハ、スヘ
テ是ヲ神代ト云。神武天皇已後ハ、凡ソ今ノ世ノ有サマ
ニ似タルユヘ、人世ト分ツトハ云ヘトモ、絶テ不測ナル
コトナシト云ニハ非ス。天ハ史中ニ付テ見ルヘシ。万葉
集等ニ前帝ノ御代ヲ指テ神代ト読ル歌ノ数多クミヘタリ。
神代ヲ去ルコト倍遠クシテ、益不測ナルコト稀ナルニ到
ル。内典ニ所謂末世澆季ニ到ル、自然ノ勢ナリ。問、上

未ノ所弁ハ、専ラ三法国律ヲ本トスルノ一片ニ拘泥シテ、
一向專念ノ宗規ヲ犯スニ以タリ。已ニ撰集ニ世天等ヲ
礼スルヲ雜行ト貶シ玉フニ背戻スルニ非サラシヤ。答、
撰集ハ往生ノ行ニ付テ正雜ヲ分チ、余ノ天神ヲ礼シ、
是ヲ以テ往生ノ因ニ擬シ、回願向生スルヲ雜行中ニ撰シ
玉フノミ。万物造営ノ恩、国家擁護ノ恩、庶薄養育ノ恩
ヲ感荷恋スルヲ雜行トスルニ非ス。何ノ相違スル事カ是
アラン。若一向專修ノ名目ニ洪滞シテ、恩義ニ答スルノ
德行ヲ妨ケハ、忽チ倫理ヲ壞乱シ、世人モ齒セサルニ到
ル。嚴乎タル真宗ヲシテ、終ニ邪教ニ近カラシム。是豈
仏意ニ契当スルト云シヤ。通淨土門ノ不得意ノ徒、神明
ヲ輕蔑シテ現罰ヲ蒙リシコト砂石集ツツニ出タリ。謹マサ
ルヘケンヤ。殊ニ我真宗ハ真俗ニ諦相取リテ開宗シ玉ヘ
ハ、神恩皇恩ヲ荷フコト尤深厚ナリ。心ヲ平ニシテ能ク
思フヘシ。若夫因果応報ノ理ヲ了セス、狼リニ非理ノ寿
福ヲ祈リテ神威ヲ穢スカ如クハ、即是雜修ノ流類ニシテ、
宗祖ノ戒ル所ナリ。一流ノ道俗タ、正ニ神恩ヲ念報シ、
祖師ノ玉フ処ノ如ク、世ノ中安穩ナレ、仏法弘マレカ
シノ恩ニ住シテ、敬畏神瞻礼スレハ、又是報仏恩ノ大ヒ

ナルモノニ非スヤ。問云、我真宗往古ヨリ近時ニ至ルマテ、本山ヲ始メ、下小庵俗家ニ至ル迄、神明ヲ其家ニ祭祠スルコトヲ不許。爾ルニ、今許サレタリシ宗意ハ、順時改易スレトモ害ナシトスルヤ。答、所問大ヒニヨシ。夫真宗今日マテ戸内ニ神檀ヲ建設スルヲ許サザリシハ、是即古ノ朝旨ヲナライ、即是神明ヲ敬畏スルモノナリ。何ヲ以テ是ヲ云ソトナレハ、曰ク、崇神天皇紀ヲ案スルニ、天皇ノ五年國中ニ疫疾多シ。民死亡スルモノアリテ、正ニ半ハニ過ントス。同六年百性^{ヤミ}離シテ、或ハ乖反スルモノアリ。夙ニ夜ニ罪ヲ神祇ニ乞ヒ玉フ。是ヨリ先ハ天照太神ヲ天皇ノ内殿ニ祭り玉フ。爾ルニ、其神威ヲ恐れ、偶住安カラストシ玉ヒ、天照太神ヲ以テ大和ノ笠縫ノ邑ニ祭り玉フコト見ヘタリ。而シテ此天皇ヲ諡シテ、崇神ト名ケ奉リ玉ヘリ。依レ之是ヲミレバ、万乗ノ至尊ニシテ、猶神明ト共住ヲ安カラストシ玉フ。此觀旨ヲ遵奉ルストキハ蚩々細民ニシテ、神威ヲ不_レ恐、不_レ淨ノ舍宅ニ安置シ奉ルハ、是敬スルニ以テ、却テ神明ヲ犯シ汚スナリトシテ、戸内ニ祭祠スルコトヲ許サザリシナリ。決シテ遠サクルノコ、ロニ非ス。且毎戸ニ神檀ヲ設クヘ

シトノ朝令モナカリシ故ナリ。凡ソ親涙久シキトキハ、輕侮ノ情ヲ醸シ、先德ノ所謂手テスルコトヲ足テスルニ至ル。先帝ノ恐レ玉フ処、爰ニアリ。又離別久シキトキハ、終ニ疎遠ノ思ヒニ流レテ捨テ不_レ問ノミナラス、神祇ヲ見ルコト魍魅物怪ノ如クス。是凡情ノ養ヒカタキ処ナリ。方今御一新ノ際、毎戸ニ神檀ヲ設ケシメ玉フ朝旨、抑モ爰ニ在ル歟。且ツ万国和親雜居ノ時ナクンハ欠ヘカラサルノ旨趣、初二已ニ弁スルカ如クナリ。此頃ノ論ハ四時循環セサレハ、五穀不熟、方物不_レ衰、時勢_レ變革セサレハ、天下委_レ疲シテ不振、故ニ大政度時勢ニ依ニ變更セサルヲ不_レ得レハ、是等ノ事ヲ云ヘルナリ。学者ヨロシク道ノ活物ナル事ヲ可_レ知。

愛國トハ、苟悅漢紀ニ曰、愛民如子、愛國如家、愛國ノ熟字爰ニ見ヘタリ。愛ハ和訓シテ、メスルトモ、ウルハシ、トモ云也。愛重、愛護、愛樂、親愛ハ惠等ノ義ヲ兼ル。重クシテ國大ヲ樂ヒマモルノ氣味ナリ。國ハ邦國ニテ神州ノ方域ヲ惣シテ云ナリ。タゞ所_レ帰ノ田園、林野、江山河ノミナラス、能依ノ_レ舍宅、人民等ヲモ_レ総シテ云ナリ。即チ是天神是ヲ産ミ、天祖是ヲ依奇シテ、以テ天孫

二住持セシメ玉ヘリ。其天孫トハ瓊々杵ノ尊ヲ始メ、後ノ御代々ノ天皇ヲ称シ奉ル称ナリ。日本記（ヤマト）ニ皇孫トアル、是ナリ。万葉集第十七ニ、スメロキノラスクニナトアリ。スメロキトハ統フル君ノ義ニシテ、皇上ヲ指。ラスクニハ食国ノ義ニテ、猶史籍ニ食邑トアルカ如シ。サレハ国ハコレ奉戴スル処ノ皇上国ナリ。其国ハ亦是万民、其皇ニツカヘ奉ルヲ職トシテ、現ニ己カ一身ノミナラス、先祖子孫ニ至ルマテ、安処スルコトヲ得ルノ地ナリ。其身ヲ愛シ、其家ヲ愛スルモノ、何ソ其国ヲ愛セサルベケンヤ。皮破レハ毛何クニカツカン。国若シ外寇ノ為ニ亡フルコトアラハ、其身ヲ愛スルモノモ手足ヲ置処アラン。其国ヲ見ルコト、我屋宅妻孥ヲ見ルカ如クスヘシ。爰ニ於テ敬神戴皇ノ実ヲ見ルニ足ル。爾ルニ、其愛ニ姑息ノ愛アリ。保全ノ愛アリ。姑息ノ愛トハ、牧牛犢舐ルカ如キノ愛ヲ云。タゞ親愛ノ情ニオホレテ、愛護、愛重等ノ実ヲ欠タモノナリ。徒ラニ山川ノ奇ヲ售、田畠ノ勝ル、ニホコリ、或ハ真神ノ靈域、君子ノ本国ナド、自負ストモ、知識不抜、事理通達セサレバ、終ニ万国ノ侮リヲ受ケ、恥辱ヲ退代ニ残スコトアラン。既ニ支那ノ覆轍ヲ見

ル。後車ノ戒トスヘシ。鎖港独立ノ昔日ハ独立ノ愛国アリ。万国和親ノ今日ハ、又和親ノ愛国アリ。舟ニウルシ、柱ニニカハスヘカラス。爰ニ人アリ。云ク、尊内諱外ノ旧章ニ依テ交際柔遠ノ新令ヲ見レハ、遺憾スクナカラズ。官吏外国器械ノ奇ニ惑溺シ、武士ハ火彈ノ威ニ恐怖シ、一時儉安姑息ノ情ヨリ和親交結シ、終ニ和魂ヲ奪レ、彼カ風下ニ立テ国政ヲ变革シ、以テ万国ノ公法ト云。是汝カ所謂姑息ノ愛ニシテ、万年ノ愁ヲ忘レタルモノニ非スナド、今云ク、是タゞ汝一人ノ慷慨ノミニ非ス。途説多ク、然リ。此タ、御一新八万国和親ヨリ来ルト執シ、而シテ外国ヲ憎ムノセマキ胸ヨリ出テ、所謂氣運天數ノ變化ニ達セサルナリ。今ヲ去ルコト十有餘年前、朝ニ鎖港ノ議アリ。野ニ攘夷ノ論アリ。是カ為ニ是天寿ヲ縮ムルモノ、指ヲ屈シテ数フヘカラズ。爾ルニ、通商益々盛ニシテ、延テ今日ニ至ルモノハ何ソヤ。此因ル処ナカルヘカラス。彼若皇国ヲ屈伏セントシ、覬覦ノ念ヲイタヒテ襲ヒ来ラハ、実ニ举国ミナ死ヲ決シテ守ルヘシ。爰ニ至テハ、神明モマタ颯風ヲ起シ玉フコト、弘安ノ昔、元寇ヲ攘ヒシ時ノ如クナルヘシ。鎖港攘夷ノ命ハ爰ニ疑ヒ

アリテ実地ヲ不レ踏、士庶ヨリオコル。全国爰ニ至ラズ。神威爰ニ至ラサルモノハ、タ、我カアツモノニコマリテ、舌ヲシテ吹ノ疑ヒアルノミ。彼ニ利ヲ餌トシ口ヲ奪フノ謀ナケレハナリ。器械ノ妙ヲ習フテ、我民ヲ利スヘシ。火弾ノ兵ヲトリテ我国ヲ強カラシムヘシ。有無相通、彼此互易ハ天地ノ理ニ順ヒ、人道ノ和ニカナヘハコソ、王政御一新已来、風雨時ヲ以テシ、連年荐登ス。乱世ノ後ハ盜賊浪士〔士〕多クシテ、良民ノ害ヲナスコト和漢ニ先蹤アリ。爾ルニ、今ヤ浪士強賊乞丐ノ類、断乎トシテ地ヲ扞フニ至ル。是ニ徹シテ革命ハ神明ノ許ス処、全ク朝恩ノウルホス処ニシテ、憶兆ノ幸福ナル事可レ知。万民モ引クヘカラス。今日ニ至テ、猶是カ非カノナサケヲナシ、終恨ヲ天命神仏ニ移ス。豈愚痴トシモ言ハサルヘケンヤ。夫愛國ノ為ニハ、一家ニ業ヲ憂フヘカラス。暫ク私計ノ損耗ヲ忍ビサルノ余リ、全州ノ富強ヲ願ハス、囂々トシテ、朝旨ヲ誹議シテ朋党ヲ誘フハ愚民ノ常ナリ。教導ノ職掌是カ為ニ起ル。古人云、是ヲ子トスルハ賢ニ非ス。是ヲ捨ルヲ難シトスル。真ニ是ヲ捨ルニ非ス。是ヲ子トスルノ所以ナリト云ヘリ。民ノ父母タル皇上叡慮ヲ欽察

シ、士農工商、各己カ職業ヲ力行シ、利用厚生ノ本分ヲ尽シ、以テ国家ヲ富強ナラシメ、和親交際ノ今日ニ至テハ、万国ノ公論ニ順シテ莫事良策ヲ取テ知識ヲ擴充シ、以テ対時^{マデ}ノ外国ニ卓絶セコトヲ是勤ム。是ヲ保全ノ愛國ト云。旨トハ旨趣ナリ。其結帰スル処ヲ云コト、第三条ノ朝旨即チ是ナリ。敬神愛國ノ朝旨ヲ誤認スルコト勿レトナリ。所謂誠忠ノ敬神、保全ノ愛國ヲ遵奉スヘシ。古ニ云、忠臣トハナリ易ク、良臣トハナリカタシト。深ク神忠國忠能ク思慮ヲ尽スヘシ。体トハ体達、体会、体認ナリ。深ク其意ヲ達シ、能ク其理ヲ知り、其実ヲ認テ、身ヲ以テ其地ニナリ。朱氏云ク、体トハ云ク、身ヲ以テ其地ニ於テ其意ヲ察スルナリト。今体漸、此義ニ同シ。苟モ教導ノ職タル者、心志ヲ其地ニ置スンハ、説教ノ筈ニ望テハ不レ得レ巳口ニ是ヲ説クト云ヘトモ、退テ家ニ帰レハ、動モスレハ朝旨ヲ誹議スルニ至ル。若シ如レ是ナルトキハ、説教ノ実効何ノトキニ顯レン。我口ヲ以テ是ヲ教レハ、人亦口ヲ以テ是ヲ受ケ、我身ヲ以テ是ヲ教レハ、人亦身ヲ以テ是ヲ受ケ、我心ヲ以テ是ヲ教レハ、人亦心ヲ以テ是ヲ受ル。三業ヲ具シテ教ル。此体ノ字ヲ

顯ス処ナラン。スヘキトハ、此条ニハ可レ体第二条ハ可レ明トアル。皆是説教者ノ身志ヲ此地ニ置ヘキコトヲ顯ス。第三条ハ可レ令トアリ。敬神愛國モ天理人道モ、ミナ是朝旨ノ処在ナリ。自ラ是ヲ体シ、明ニシテ、而シテ是ヲ他ニ及ホシテ朝旨ヲ遵守セシムヘキナリ。第二条ハ自行ヲ主トシ、第三条ハ化他ヲ主トス可レ知。

第二条ノ中、天理トハ、釈門ニ所謂五趣ノ随一ニシテ、六欲四禪四無色ト三類ノ天ヲ云。四天王衆天ヨリ非想非々想天マテ二十八層ノ別界アリ。善業処感ノ勝有情、爰ニ住ス。故ニ天ハ最勝ノ義、高明ノ義トス。俱舎四教儀集註等ニ見ヘタリ。是ハ今ノ所論ニ非ス。支那ニテハ中庸ニ云ク、天ハ斯昭々之多ナリ、及毎ニ其窮一也、日月星辰等ト。荀子曰、天ハ実ノ形ナシ、地ノ上ヘ至ル処ハ天也。邵子ノ曰、自然ノ外ニ別ニ天ナシ。又皇典ニハ清明ナルモノハ上リテ天トナリ、重濁ナルモノハ滞テ地トナルト云。又伊邪那岐ノ命皇太神ニ詔テ、汝高天原ヲ治メトノ玉フ。其皇太神ヲ天照ト申シ奉リ、又皇太神自ラ名乗テ天疎向津姫トノ玉フ。サレバ天トハ清ルモノハ上テ一円成ト聞ヘタリ。所謂太陽日輪此ヲ天ト言ヒ、然

レトモ後ニハ日辺ニ月星ヨリ蒼々タル大虚無雲雨ニ至ル迄ミナ類ヲ云。一天トイフ、アメハ天也。委クハ三国ノ古書ヲ読テ其指ス処ノ天ノ別ヲ知ルヘシ。扱テ今、天理ト云処ノ天ハ、人魂鬼神ノ所為ニ非スシテ元亨利貞ノ徳ヲ備ヘ、自然ト万物ヲ生化スル処ノ元氣ヲ云。彼ノ支那ノ説テ云ヘハ、昭々ノ多キ中ニ包蔵スル処ノ元氣、皇典ニヨレハ、彼天日ニ固有スル処ノ元氣ニシテ、万物ヲ化生スル処ノ徳ナリ。即ミナ眼前ニ点識スルカ如シ。其徳ヲ実体ニ帰シテ、名ケテ天ト云。理ハ条理ニシテ即性ナリ。儒書ニ姓理ト云。理ハ幽隱ニシテ直ニ是ヲ知ルヘカラス。必ス顕彰セルコトヨリ推テ其理元ヲ知ル。姓ハ微密ニシテ取テ此ヲ示スヘカラス。必ス発見セル相ヨリ推テ、其徳アル事ヲ知ル。喩ヘハ石ヲ打テ火ヲ見ルコトアリ。其火ノ相ヲ以テ、石ニ火性アル事ヲ知ル。沙ヲ絞リテ油ヲ得ルカ如シ。其油ノ相ナキヲ以テ、沙ニ油ノ性ナキコトヲ知ル。又鷄ヲ逼テ水ニ入レ令ルニ、悲鳴シテ游泳スルコト能ハス。鵝卵鷄母ニ育セラル、トモ、猶水ニ入サルコトヲ得ス。是ミナ姓理ノ有無ニ依ル。此理ハ直ニ知ルヘカラス。必ス事ヨリ推スノ例ナリ。又習熟スル

トキハ三尺ノ壁ハ超ヘシ。三丈ノ壁ハ習熟スルトモ超ユヘカラス。此天性モ窮達アルカ故ニ、此等ノ例ヲ以テ理ノ字ノ指ス処ヲ知ルヘシ。扱天理ハ備ル処ヲ知り、達スヘキ処ヲ知り、勉強シテ此ヲ尽ス。是人ノ道ノ本分トス。西洋ノ諸国、早ク心ヲ爰ニ用ヒテ理教大ヒニ進ム。天地ノ間ノ万物ヲ動植物ノ三有ト分チ、此ヲ弃物ト究理ト精密ト爰ニ離合ヲ論三科ノ学ヲ以テ明ラムルカ彼国ノ学則ナリ。今也、往来ノ道開ケ、授受自在ナリ。善師ノ求テ習練スヘシ。天地ヲ共ニシ、同氣海中ニ呼吸スル、宇内ノ五大洲ハミナ一家ニ養ハル、カ如シ。恥ルコトナク誇ルコトナク、各地ノ産物發明ノ器マテ、互ヒニ相与ヘ相受テ天地ノ化育ヲ助ケサルヘカラス。人道トハ猶路ノ如シ。人ノヨル処履ムヘキ処ヲ道ト云。中庸ニ所謂天之命之曰レ性、々トハ天理也、率レ性之曰レ道、々ハ人道ナリ。朱氏曰ク、天ハ陰陽五行ヲ以テ万物ヲ化生ス。氣以テ形ヲナス。理モ又賦ク、猶命令ノ如シ。於レ是人物生各其賦ク処ノ理ヲ得ルニ依テ徳修五常ノ徳トナル、所謂性也。人物各其姓ノ自然ニ從フトキハ、其日用事物ノ人間ニ各行フヘキ道非スト言コトナシ。是則所謂道ナリト云リ。

是則天理ニ順フ人道ト云リ。人自ラ行フ位ヲ道ト云。他ヲシテ此ヲ行ハシムルヲ教ト云。所謂道ヲオサムル、是ヲ教ト云。道ハ古ニ尊ク、後世ニ委ルト云。今此ヲ論スルニ、人心ノ道アリ。人事ノ道アリ。此ヲ皇國ノ古ニ求ルニ、道アリテ教ヘナシ。人自ラ此ヲ道ト知テ行ヘハ、他ヨリ此ヲ道ト知テ習フヲ、此ヲ行フ道則教ヘト成リテ、無為ニシテ化セン所以ナリ。而シテ其人心ノ道ト極ルニ直ノ一字アリ。倭姫ノ世記ヲ案スルニ、皇太神ノ化、御魂ヲ大直日神ト云ハ御魂ノ禍津日神ト云。荒御魂ハ惡事ヲコラサン為ニ起リ玉フ御魂ナリ。和御魂ハ善事ヲ勸ントテナ、ツツコイセラル、御魂ナリ。故ニ我國ハ正直ヲ以テ道トスト云。勸善懲惡ハ即直ナリ。支那ノ聖文字モ亦善ノ皇道ト符合ス。何ヲ以テ此ヲ云ヤ。云ク、真正直ニシテ中正ナリ。堯ノ舜ニ授テ誠ニ其中ヲ執ト云モ、舜ノ禹ニ授ケテ惟精惟一ト云モ、ミナ直ヲ指ス。孔子ノ思無邪ト云モ直ナリ。子思ノ天地之道一言ニシテ尽スヘシト云モ至誠ノコト。司馬公カ所謂一字モ亦直ニ帰ス。孟子ノ浩然ノ氣モ直ヲ以テ養ト云。直ヲ以テ父子ノ間ニ行ヘハ親ナリ。君臣ノ間ニ行ヘハ義ナリ。夫婦ノ間ニ行ヘハ

別ナリ。兄弟ノ間ニ行ヘハ序ナリ。朋友ノ間ニ行ヘハ信ナリ。智仁勇ノ三徳モ、仁義礼智信ノ五常モ、直ノ活用ヲ云。仲尼楚国ノ葉公ニ対シテ父爲子隱子爲父隱直在其中ト云シモ、直ノ活用ヲ示セシモノナリ。而シテ真ハ即チ天地ノ理ナリ。草木、人畜各一定ノ性質カ□^{ツヒ}テ古今改ラサルハ直ノ本位ナリ。生々化々シテ且暮四時、古今循環シテ日々新タナルハ直ノ活用ナリ。天理凝滯スルコトナク、人道通達セサルコトナキヲ知ラハ、氣運天教ニ順シテ自ラ沿革スルノ国政ヲ議スルコトナク、恨ムルコトナキニ至ラン。爾ルニ、我国開闢ノ初メ、世朴二人質ニシテ制度文物ノ具ラサルハ、蓋シ万国ミナ然リ。爾ルヲ世年ト移リ俗世ト変シ、故二人道モ亦此ヲ品節スルノ教ヲカラサルコトヲ得ス。是ヲ以テ応神天皇ノ御世ニ儒教来リテ皇道ヲ翼賛スル。儒教亦五常五倫ヲ品節スレトモ、直ノ一字ヲ出サルコト前ニイツルカ如シ。欽明天皇ノ御代ヨリ釈教伝ヘテ三世因果ノ義ヲ明ス。釈教亦諸惡莫作、衆善奉行ヲ以テ歷世ノ通戒トス。緣起ニ由テ五篇七聚等ノ品節アリト云ヘトモ、ミナ勸善懲惡ヲ出ス。其勸懲ニハ方便真實ノ二門無キニシモアラサレトモ、因果

業報ノ理ハ確乎不拔ノ精論ニシテ、夫ヨリ皇道ヲ翼賛スルコトハ、遍ニ支那ノ儒教ニ起ル。何ヲ以テカ是ヲ云ヤ。云ク、過去ノ善惡因果ヲ知ルカ故ニ、不幸薄命ニアヘトモ人ヲ恨ミス、夫ヲ咎メス。亦未來ノ苦樂果報ヲ知ルカ故ニ、身口ニ偽飾ノ忠孝ヲ售テ中心奸曲ヲ懷クコトヲ恐ル。爰ヲ以テ勸善懲惡ノ人ノ肝腑ニ徴スル、委ハ別ニ論アリ。印度ノ九十五種ノ外道、支那三武一宗ノ廢仏、及ヒ韓歐等ノ始論アリト云ヘトモ、痴猪ノ金山ヲ磨スルカ如シ。増モノ惡シテハ増々其光リヲマス。我国、近世韓歐ノアトヲ追フモノ多シト云ヘトモ、三国ノ護法家已ニ弁明シテ尽テ尽サル処ナケレハ、彼ノ余焮ハ畢竟釈門ノ榮光ヲ羨ミ帰ス。又函録スルニ足ス。衆口金ヲ鎔カシ、群輕舟ヲ沈ムルノ諺ナリ。獅子心中ノ喩ヘアリ。僧侶ヨロシク外ヲ守リテ内ヲ戒ムヘシ。又人道ノ道トハ利用厚生ノ一ニアリ。私ニ古ヲ考ルニ、或ハ穴居野処アリ。起テ火食庖厨結繩画卦ト漸次ニ成シ、今ニ至テハ百事備テ加フヘキ処ナキカ如シ。爾リト云ヘトモ捨物究理ハ日ヲ追テ委ク、年ヲ重テ進ム。千歳ノ後ヨリ今日ヲ見レハ、今日ヨリ千歳ノ古キヲ見ルカ如シ。鷄ニ時ヲ告ケシメ、

猫ニ鼠ヲ取ラシムル如キモ、異類ノ賤キト云ヘトモ、善ク人事ヲ助ルトキハ養テ其能ヲ用ユルニ何ノ愧ル処カアラン。況ヤ、於二人間一乎、写真鏡、伝信機、火輪車、氣球ノ奇器伝ヘテ皇國ノ人事ヲ便利ス。速ニ習テ遂ニ知識ヲ拡充スヘシ。千里ノ遠境モ対坐シテ語ル如ク、絶海ノ万国モ比隣ニ通スル如ク、利用厚生ノ術豈盛ンナラスヤ。猶推テ旧染ノ頑染、陋ニ束縛セラレテ開化ノ佳境ニ進歩スルノ念ナク、凡俗ノ美降ヲ厭ヒ、人事使用ヲ嫌フハ屋宅ヲステ、穴居ヲ顧フカ如シ。可レ謂頑固極矣。此論雖レ不レ尽恐レ繁。爰ニ已ム。学者可ニ沈思一扱神儒仏ノ三道鼎立シテ人心ヲ維持スルコトハ欠ル処モナク、又加フヘキ処モナシ。更ニ西洋究理ノ学ヲ修シテ、天文地理ヨリ兵機、医範、拾物、器械マテ工夫ヲ尽ストキハ、ヨク天地ノネル所ヲ知り、人生ノ便利ヲ明ニシテ、人心ニシテ人心ノ道、人事道両ナカラ全タカルヘカラス。希クハ頑固ノ僻熱ヲ醒シ、一新ノ朝旨ヲ体認セハ、是天理人道、ヲ明ラカニスヘキモノナラン。

第三条ノ中、皇上トハ、書經ニ皇々タル上帝ト云ル語アリ。今ハ此天子ヲ指ス。即チ今上皇帝ト云コトナリ。皇

ヲ和語ニスメラキト云。世ヲスフルキミト云コトニテ、統君ノ義之前ニモ已ニ明ス如ク、神州ノ国体ハ、人民ハ是皇上ノ人民ナリ。国土ハ是皇上ノ国土ナリ。爰カ外国ト不レ同処、孟子ノ曰、民ヲ尊トシ、社稷之二次キ、君ヲ輕シトス。陳勝云、王侯將相寧ソ種アラン哉。爰ヲ以テ支那ノ国体トスルカ故ニ、彼ノ国ニハ堯ハ舜ノ受禪アリ。伊尹ノ廢立アリ。湯武ノ放伐アリ。皇朝ノ国体ニ居シテ彼ヲ評スルトキハ其失一二非ス。彼ノ受禪ハ父子ノ親愛ナク、君臣ノ義理ヲ廢シ、王民ノ次第ヲ失シ、貴賤ノ差別ヲ壞フ。又彼廢立ハ君主ノ威徳ヲ奪レ、吏民ノ疑惑ヲ生セシムル。又彼放伐ハ篡奪僭立シ、委ク者別所ニ論スル如ク、我國中世ヨリ、或ハ藤原基経、或ハ北条義時等、支那風ヲ習フテ皇上ヲ廢立ス。皇室是カ為ニ衰弱シテ天下大政霸府ニ歸スルコト殆ント七百年、上ニ神明アリ、下ニ和魂アリト云ヘトモ、腐儒學術武門ノ慕威ニ束縛セラレテ尊ミ玉フ。大典落々トシテ地ニ委シ、綿々トシテ不断ナルコト縷ノ如シ。天運循環シテ、往テ往テ還ラスト云コトナシ。今王政古ニ覆シ、雲霧ヲ開ク。再ヒ太陽ヲ見カ如シ。夫愉快ナランヤ。然リト云トモ、当

今交際ノ万国、其政治ヲ聞クニ、凡ソ三体アリ。一者立君政治、二者貴族合議、三者合衆共和ナリ。夫立君政治ノ中ニ、又立君独裁アリ。立君ノ国ト云ヘトモ皇統一系ニシテ、吾神国ノ如クナルヲ聞ス。往昔東大寺ノ齋然入唐シ、本朝職員ト年代記ト各二卷ヲ大宗ニ献ス。太宗一見シ、皇国ノ一系不易ノ公卿、官ヲ世々ニスルヲ羨ムト文獻通考ニ見ヘタリ。近時清人徐松合竜ノ瀛環志略ニ皇国ノコトヲ録スル中ニ、其国只將軍ヲ争テ王位ヲ争ハスト筆セリ。此ミナ本邦ヲ羨ム所謂ニシテ、神州ノ諸威ニ卓絶スルハ、職トシテ是ニ由ルナレハ、万国ニ和親シテ其美事ハ取ヘシ。其良法ハ写スヘシト云ヘトモ、其万国ノ羨ム処ノ美事良体ハ、増々以テ堅カルヘシ。奉戴トハ、和語ニタテマツルトモ云ヒ、ウクルトモ云。其物其事ヲ重ク立テ、心中ニ是ヲ服膺スルナリ。戴ハ和語ニイタ、クト云。イタ、クトハ頭上ノ名ナリ。各カ一身ノ貴処タル頭上ニ戴ヒテ、尊崇スルカ如クアルヘシト云ナリ。朝旨トハ朝廷ノ趣旨ナリ。朝トハ爾雅ノ尺言ノ註ニ、臣君ニ見ユルヲ朝ト云。周礼ノ註ニ、朝トハ猶早ト其来ルコト早キヲ欲スルナリトミヘタリ。群臣急ヒテ君ニ見ヘ、

叡慮ヲ仰キ、大政ヲ議定アラセラル、序ヲ朝廷ト云。其趣旨ヲ律令格式ノ四アリ。人王四十二代文武天皇ノ四年ニ、初テ律六卷令十一卷ヲ作り、四十四代元正天皇ノ養老二年、重テ律十卷、令十卷ヲ著シ、五十二代嵯峨天皇ノ弘仁九年、弘仁格式ヲ作ル。五十六代清和天皇ノ貞觀十一年ニ貞觀格ヲ作り、同十三年ニ貞觀式ヲ著ス。六十代醍醐帝ノ延喜五年ニ延喜格ヲ作り、延長五年ニ延喜式ヲ著ス。如是時々ニ定メサセラレテ、其書現ニ存スルアリ。爾リト云トモ、御代ヲ歴ルニ從テ近ク損益アリ。時順テ宜キヲ制シ玉フモノナリ。此度御一新ニツキ、又其宜キヲ制シ玉フヲ明治ノ律令格式アリ。即チ村々ニ揭示シ玉フ所ノ制札、是ソノ令ノ一ツナリ。此律令格式ノ名目ハ唐書ノ刑法志ニ、人ノ惡ヲ成シテ罪戾ニ入ハ專律ニ断ス。未タ爾ラサルヲ制スルヲ令ト云。尊卑貴賤等ノ級、国家ノ制度爰ニ設テ、彼ニ向ハシムルヲ格ト云。百官有司ノ常ニ行フ処ノモノニシテ、爰ニ設テ彼ヲシテ習ハシムル。此ヲ式ト云。諸司ノ常ニ守ル処ノ法ナリトアルニ習ヒ玉ヘリ。又弘仁ノ序ニ云ク、蓋シ聞ク、律ハ微事ヲ以テ宗トス。令ハ勸戒ヲ以テ本トス。格ハ即チ時ヲ量リ

テ制度ヲ立ルナリ。式ハ即チ補欠捨残ナリ。四物相用ヲ以テ範ヲ垂ル、ニ足ル。去ハ、律ハ格式令ノ御制ニ違犯スル咎ヲ正シ玉ヘル御正シ文ナリ。令ハ何ノ官人何ノ事ヲ司リ、何ノ事ハ云々セヨト仰玉ヘルヨシ、仰ノ文ナリ。格ハ其礼式ニ記シ玉ヘル御法ノ外ニ、時々勅書ヲ以テ定メ玉フヲ御定ノ文ナリ。式ハ何ノ神事ヘ云々シテ仕ヘ奉ル。何ノ御政事ハ云々スルコトソト、其御式ヲ記サセ玉ヘル御業之文ナリ。律令格式ノ四目ハ差別ハ如レ是遵守トハ和語ニシタカフト云。上ノ命ノ俣ニ承ル。此ヲ遵守云、和語ノ意ナリ。遵ハ即チ奉ナリ。守トハ其物其事ヲ堅ク執テハナタザルナリ。令トハ能令ノ言ニシテ、説教ハ能令ナリ。聴衆ハ所令ナリ。教者ヨク聴衆ヲシテ、皆戴皇遵守ノ処ニ至ラ令ル。前ノ二条ト此三条トハ、主トナル処、自行化他ノ別アルコトナリ。前ニ已ニ弁スルカ如シ。同問、朝旨ノ条々ノ中ニ切支丹ヲ禁シ、又邪宗門ヲ制シ玉フ説教ノ筈ニ於テ、切支丹邪宗門トシテ此ヲ斥ケテモ可ナリヤ、否ヤ。答、方今万国交際ノ約ヲナシ玉ヘル上ハ、彼賓国ニ崇ムル処ノ者、此王国ヨリシテ、直ニ公然トシテ邪トスルモ憚リナルニヤ、御制札ニモ切支

丹ニハ邪ノ字ヲ表セスシテ、別ニ邪宗門ト云一条ヲ立テ、然モ其体何者ト云コトヲ挙テノ玉ハス。サレハ、此旨ヲ能体シテ、彼カ説ヲ斥クニモ、只廢立ノ体ハ存スルトモ顯然タル邪ノ名ヲ称ヘサルカ、時ニ順ヒ、事ニ從テ宜シキ制スルモノナリトセンヤ。此頃或宗門ノ教導ノ心得(マコト)ヲ記セルモノヲ見ルニ出タリ。説教ハ彼我ヲ一貫シテ公平ヲ旨トシテ、必ス自贊毀他スヘカラス。禦侮ノ策ハ即今ノ急務トスト云ヘトモ、公然トシテ説破スルコトヲ許サス。或ハ耶蘇或ハ妖教、又天主ナト、其名目ヲ顯シテ破斥スルコトハ教導第一ノ禁止ナリ。何者カ宇内万国各教法アリ。我ハ吾国ノ教ヲ是トシ、彼ハ彼ノ国ノ説ヲ非トセサルハ固ヨリ、人情ノ当今ナリ。喩ハ我若シ西洋ニ至ランニ、各教師頻リニ吾皇國ノ教法ヲ指目シテ、以テ謗斥スルヲ聞ハ、我豈快ランヤ。爾レハ、即今御雇人ノ洋人百余名、書生并ニ府県ニ散在セルヲハ我等其國教ヲ毀譽セハ、彼亦不平ヲ懷テ皇國ニ不利有ン事ヲ知ルヘキナリ。苟モ我民ヲシテ敬神愛國等ノ三条ノ真理ニ達セシメハ、驅テ異教ニ入ント欲セス。抑我カ教法亦將ニ行ハシントス。是等ノ機會厚ク心得、必ス外教ヲ誹ルヘカラ

ストノ玉フ。此言大ヒニ善シ。方今ノ老若ヲ見ルニ頑固
旧弊ニシテ甚キハ洋器、洋服、ヲ見テ泣哭吐唾スルアリ。
又開代ヲ大庭ニ表シテ癡狂ニ以タル人アリ。我未タ其是
非ヲ知ラス。古語ニ好テ不レ知ニ其惡ニ々而知ニ其好者一
天下少シ是ヲ謂乎、雖レ然今猶開化者ハ少ク頑固ノ者多
シ。此カ為ニ弓ヲ張ルノ理ヲ以テ、上来弁スルトコ口如
レ是。

明治七年二月官許

京都書肆 西村九郎右衛門輯

『三章教憲和解』 高岡増隆 (明治七年三月)

三章教憲和解

権少教正高岡増隆 述

第一 敬神愛國ノ旨ヲ体スヘキ事

凡ソ吾御国ニ於テハ、神カミマツリ祀ヲ以テ先トシ、神事カミコトヲ以テ
基トスレハトテ、禁秘御鈔ニ曰ク、凡禁中ノ作法、先ツ
神事、後ニ他事、且暮敬神之勸慮無ニ懈怠一仰セラレタ
ジヤ此御鈔ハ人皇四十八代順德帝ノ御製作ナレハ、御鈔ト云。今仰セラ
其時ノ年号ヲ建曆ト云ヘハトテ、建曆ノ御記トモ云フ。
ル、如ク、禁中ノ御規則既ニ神事ヲ以テ先トシ玉ヘハ、
全国一般神祭ヲ嚴重ニセネバ成ヌコトデ御坐ル。
方今御維新ト仰出サレタニ依テ、更始アラケニ敬神ノ名義ヲ
設立玉フコトテハ御坐ラヌ。斯ヲ以テ古事記ノ序ニモ、
即チ覺レ夢而敬ニ神祇一所カミ以称ニ賢君一、又繼体紀ニハ
敬ニ祭神祇一錄出アレハ、今モ第一ノ標目ニ敬神ト仰セ
ラレマシタジヤ。然レハ我国ニ生レタル者ハ、必ス神ヲ
敬ヒ貴ヒ奉ラネバ成マセヌジヤ。(契云字義的当)扱、敬ト云ハ説文ニ爾
也。玉篇ニハ慎也恭也ト有レハ、ツ、シミ、イヤマフト
謂フヲ敬ト名ケテ、ツ、シムトハ我心ヲ深ク守リ、イヤ

マムフハ他ヲ貴ルコトニテ、常ニウヤマフト云モ同シ
 コトテ御座ル。曲礼ノ註ニ、在レ貌為レ恭在レ心為レ敬聞
 ケハ、我々神明鴻恩ヲ有難ク体認テ、肅恭々々神慮ヲ
 恐察シテ惡念、惡業ヲ慎ミ（私教ニ所謂諸惡莫、畏美々々
 作ト云此意ナリ）三畏美言ルヲ譏斥ス、論語ニ曰ク君子有也、
 畏天命云々、今謂天命トハ天神ノ命也、心底カラ崇メ貴ミ奉ル
 所ヲ敬神ト申マス。扱神ト指コト惣シテ申サバ、天津神
 国津神ト意得テ宜シ。其天津神トハ何神ニテ何レノ処ニ
 御座ソト申スニ、是ハ高天原トテ大虛ニ平カナル所アリ
 テ、彼ニ神々ノ靈集テ而モ吾御国ヲ衛護下サル神ヲ
 天津御神ト申マス。仏法ニテ仏ノ御座ル
 所ヲ指テ法界宮トモ浄土トモ云ヘル如ク、天上ニ
 御座神明ノ御坐ル所ヲ呼テ高天ノ原ト云フ。然レハ何神
 ト一ト柱ヲ指テ天津神ト申デハ有マセヌ。
（安云神ノ有レ傳抄解均惑）
 又国津神トハ畝ノ詞ニモ高山ノ伊惠理短山ノ伊惠理ト有
 リテ、此世界ノ内、高山ノ絶頂、小山ノ嶺上ニ鎮座
 神々ヲ該撰テ国津神ト申スノデ御坐ル。然レハ是モ一
 ト柱ヲ国津神ト申デハ無ク、古書ノ中ニモ天津御神八百
 万神、国津御神八百万ノ神達トモ書テ有レハ、一神ア無
 キコトヲ知ルベシ。あまつ神国ツ杜をいはひてぞわかあ

し原の国はおさまる。是ハ後宇多帝ノ御歌デ有マスガ、
 今仰セラレマシタ通り、吾輩原ノ御国ノ優美ニ治マリ、
 我儕無事安穩ニ活計ル、ハ、全ク雲壤ノ間ニ御座諸神ノ
 恩威ナレハ、イカニモ敬ヒ奉ラネバ成マセヌジヤ。
 若シ別シテ神ト指ス所ヲ申サハ、忝クモ天照皇大御神ノ
 一ト柱ヲ唯タ神ト申マスジヤ。是ノ御神ハ御国ノ大祖ニ
 座テ、而モ吾国ノ大君神ナレバ、常恒ニ下土ヲ照臨下
 サレ、仁恵成サルニ依テ、暑キ寒キノ苦衷モ無ク、惡事
 災難ノ憂患無ク、逸道ト生涯ヲ経歴、加、之是ハ白イ
 黒イ長イ短イノ視察モ出来、彼大少キ丸角ナト一々其
 器械ノ識得モ、僉ナ此大御神ノ御蔭デ御坐リマスジヤ。
 若シ此神御座マサズバ、我々一日片時モ身命ヲ持ツコ
 トハ成マセヌジヤ。然レハ尋常我身ヲ省察、此大御神ノ
 優恩ヲ深く感戴、且モ暮モ忘却サル所ガ敬ノ字ノ意
 味ニ的当テ御坐ル。尤モ神ト名ケ奉ル其御正体ハ何成モ
 ノゾト申スニ、古来陰陽不測、靈妙幽遠ト述テ、何程
 ノ聖人智者デモ其玉体ヲ拝瞻奉ルト云コトハ出来ヌコト
 テ御坐ル。（安云神体現態）斯ヲ以テ古人聖而不レ可レ知レ之謂レ神、聖
 人ト云ハレテ、徳ヲ備ヘ行ノ勝レテ而モ知恵才覚ノ擢拔

タル人ニテモ、神ノ玉体ヲ見窺ムルコトハ成ラヌモノジヤ。併シ神ノ御形容ハ無キモノト聞ケハ、何程信仰シテモ無益ナコトト思ヒ、恭敬ニモ及フマイト思ハル、デ有ウガ、夫ハ心得違ヒテ御坐ル。既無レ形有レ靈云テ信スレハ、必ス靈驗カ有マスジヤ。所謂打テハ響キ、感アレハ応アリト、信心ノ誠ヲ竭セハ、神感応マシ（冥云感応道交亦難思議）テ新ナル靈驗ヲ蒙ムルコトハ、人ノ能ク知テ居ルコトテ御坐ル。或人ノ説ニ、神ハ香笑ノ中略ト申タガ、成程一切物ノ香ハ日ニモ視エス、手ニモ取レネトモ、其匂ヒノ送り来ル所ニテ、是ハ何ノ匂、彼ハ何ノ嗅ナリト、其実体ハ確定ト見エネトモ、其匂ヒニ依テ実体ノ善惡ヲ知ル如ク、神ノ尊体我儕カ肉眼ニハ見エネトモ、信心ノ誠ヲ致セハ著明キ靈驗ノ有ルコトナレバ、深ク崇信シテ意願ヲ満セラル、カ肝心テ御坐ル。

愛國トハ、愛慕愛憐トモ云意ニテ、万葉集ニうつくしト讀タルガ、是ハ仁愛ノ意ニテ、所謂いつくしむト同シコトナレハ、痛ク心ヲ入レテ仁（イツクシム）ヲ成スジヤ。併シ持統天皇ノ紀十六、朕嘉ニ厥尊レ朝愛レ国売レ已顯レ忠ト有レハ、今モオモフト訓テ宜イジヤ。吾國ヲ愛（オモワ）ネバ成ヌ

ト云コトハ、凡ソ吾御國ハ外國ト換テ神ノ造ラセ玉フ國ニテ、神ノ常ニ守護セ玉フ蒙蔭ニテ、五穀モ豊（タクサンゾキ）熟万物モ能ク鞠育（ソダチ）タレハ、衣食住ノ三ツトテ、身ニハ暖カニ衣服（キレキ）ヲ着、口ニハ美味（ヨキモノ）ヲ食ヒ、家ヲ建築（ケンゾク）ニモ木材ハ十分ニシテ、何ニ不自由ノ無キハ、全ク國土ノ恩沢（オンソク）ナレハ、精々國ノ為ニ忠誠ヲ尽サネバ成マセヌジヤ。古歌ニ天地のひらけしよりや千早振神のみ国といひはしめけん。抑々吾國ハ、天地ト開闢（ヒラケ）タル所ニ於テ神成マシ、而シテ伊弉諾、伊弉册ノ二柱ノ神國ヲ造リ、夫ヨリ人間ハ勿論、草木鳥獸悉ク以テ此ニ柱ノ神ヲ造作玉ヘル。故ニ万国ニ超越（コエ）タレハトテ、吾國ヲ秀真（ホツマ）ノ國トモ名ケ、又國ノ豊ナレハ豊葦原國トモ云ヒ、又穀物ノ統滿ナレハ瑞穂ノ國トモ名ケマスジヤ。是等ノ事ヲ想像（オモヒヤリ）テ、猶モ國ノ富彊（トム）ヤウ、國ノ利運（タケ）ニ成ルヤウ、兵士ハ命根（イノチ）ヲ以テ邦ヲ守衛（マモリ）、農夫ハ稼穡（ヒキヤシヨウ）ヲ励テ邦ヲ豊饒（ユツカ）ニシ、商家ハ売買（カウバイ）ヲ以テ邦ノ余利（ハカリ）ヲ測量、職工ハ各々手業（テウザ）ヲ以テ家ノ蔵ヲ建テ、弁利ナル、道具ヲ誘調（コソテハ）ルハ、所謂君子賢ニ其賢一而親ニ其親一、小人樂ニ其樂一而利ニ其利一云如ク、何レモ國恩（オモヒ）ヲ恁（オモヒ）テ其道ニ力ヲ竭スガ愛國テ御坐ル。体ス

トハ体達体認ノ義ニテ、広韻ニモ体ハ四肢也ト有テ、吾カ身軀ノ手足ヲ忘ル、者ノ無キ如ク、吾国ニ生レタル者ハ、寢テモ覚テモ敬神愛国ト云コトヲ忘レズ、神ノ貴キコトヲ憶テ深ク信心ヲ尽シ、国ノ恭キコトヲ憶テ貲産ヲ励ムヤウニト仰セ出サレタコトテ御坐ル。

天理人道ヲ明ニスヘキ事

(爰云天理天道各有所司不可不備也)
天理トハ、天然自然ノ條理ト云コトデ、人間ノ事作ニモ及ハズ、思慮ニモ能ハズ。天地万物其道脉ノ正シク確然テ、一向ニ乱レヌ所カ天理ニテ、春カ来レハ樹木梢エヨリ芽ヲ出シ、花カ咲キ、夏ニ移レハ草木ノ蒼々ト榮エ、秋ニ臨メハ野毛山モ共ニ紅キノ色ト変シ、冬ニ至レハ木ノ葉ハ落チ枯野トナルハ、全ク人間ノ作業ニ非ス。人力ノ及ハヌ所ニシテ、自ラ其氣運ニ遷移テ變動往クカ天理テ御座ル。又石ノ堅キ、風ノ動キ、水ノ物ヲ潤シ、火ノ物ヲ乾シ、而シテ水ハ低ニ付テ流レ、火ハ乾ケル方ヘ昇リ、魚ハ水ニ居レハ自由ニ游ケトモ、陸ニ置ケハ忽チニ死シ、鳥ハ空ニ騰レハ自在ニ翻レトモ、水ニ入レハ溺死ニ、獸ト云ヘハ地ヲ走り、蛇ナレハ地ニス

ルハ僉ナ天理、鳥獸ノ中ニテモ各別ニ長スル所アリテ、猫ノ目ハ時ニ随テ革、鶏ハ時ヲ占テ鳴ヒ、雁ハ寒ク成ルト尋ネ来リ、燕ハ暖ニ成レハ慕テ至ル。蟻ハ雨降ルヲ知テ己カ穹ヲ塞キ、蜂ハ不吉ノ有厭テ住ム所ヲ去リ、花草ニ在テモ杜丹ハ主人ノ榮エ衰ルニ連テ己レモ夫レニ從ヒ、葡萄ハ主人ノ衰ル時ニ到レハ増榮ユルモ、渾テ天理ノ然ラシムル所テ御坐ル。

(爰カ有ハ人天道氣物義也)
人道トハ男女身ニ備ハリタル所ノ道脉ニテ、是ニ違逆時ハ人ニシテ人ニ非ス。又天理ニモ協ハヌ故ニ、神代ノ卷ニハ違ニ陰陽之理一所以生ニ蛭子一ト男神ヨリ声ヲ掛ヘキニ、女神先キニ声ヲ掛ケ玉フ。故ニ不具ナル蛭子ト云神カ生レタジヤ。併シナガラ人情ノ甘身サニハ吾カ分限ヲ商量スシテ、兎角ニ立身出世ヲ祈リ、家運長久ヲ願ヘトモ、思フ俣ニ成ヌハ天理ニ調和又所アル故テ御坐ルルハ仏法ニテハ宿業ト云。周書二人万物之靈ト説キ、孔安国ハ天地ノ所レ生惟一人為レ貴有レハ、天地ノ間タニ生アル者ノ中ニテ酋長ト云ハル、カラハ、常ニ五倫ノ道ヲ能クマモリ
(爰云道徳若旅羅也)
執守、主人トナレハ奉公人ヲ慈仁ミ、柔和ヲ旨トシテ造次ニモ權威ヲ振起ス。奚奴トシテ他家公ニ忠勤ヲ竭シ、

父母ハヨク其子ヲ教ヘ育テ、子トシテハ親仁ニ孝行ヲ致シ、夫婦ニハ内子外トニ付テ其務ル所ニ別アリ。兄弟ニハ上ヘ下タノ間其慎ム所ニ序アリ。朋友ニ遍ニ相資テ深ク交情時ハ自ラ天理ニ契当、人道ヲ明カニスト云モノデ御坐ル。旧故称徳帝ノ御宇、和氣ノ清麿、道鏡カ四肢ノ筋一絡ヲ斷絶レ屈一伸ノ出来ザルモ、八幡大神ノ靈験ニ依テ、元ノ如ク自由ノ身ト成タルハ、単ニ忠実ノ赤心ノ貫徹所ニシテ、人ノ人タル道ヲ明カニスル故、自ラ天理ニ協当テ掲然キ仁恤カ有マスジヤ。又孝行ヲ尽ス人ノ土ノ中ヨリ黄金一釜ヲ穿出シ、雪ノ中ニテ竹萌ヲ著目タルモ、人道ノ条理ヲ守リ、自ラ天理ニ契合故ニ思ハス幸福ヲ得マシタジヤ。目今新聞ニ忠孝ヲ尽シタ者ヘ褒賞ヲ賜下タコトヲ数多記載有マスバ、是ヲ模範トシテ、何レモ五倫ノ道ヲ深ク恪守レヨトノ教諭テ御坐ルカラハ、各方モ目翫聞覚テ其通りニセネハ成マセヌジヤ。

皇上ヲ奉戴シ朝旨ヲ遵守セシムベキ事

皇上トハ、上ミ一人ノ嘉号ニシテ、一天万乗ノ君御一方ニ限ル言テ御坐ル。今皇上トハ、スベラガミト云フコ

トニテ、吾国ノ天子トシテハ、広ク四海ヲ統御玉フ君故スヘラギトモ、スメラギトモ訓マスジヤ。張九齡カ文集ニ、日本国王主明樂美御徳ト書タルハスメラミコト云コトニ成マスジヤ。倭此皇上ヲ古事記ニ現人神ト書テ有マスハ、恐多クモ天子ハ同シヤウ二人間ノ姿態ニ顯然玉ヘトモ、実ハ天照大御神ト一点ノ換リ無キ玉体ニ生坐、凡人トハ遙カニ尊キ君ニテ生神ニ在セ玉フ。(空衣光緒御機密院令入館皇子後進オオキミハ)故ニ万葉集ニハ、皇者神ニ四座者ト云ヒ、古事記伝ニハ掛畏天皇ハ御世々々皆ナ神ニ座スコト申モサラナリト云テ有レハ、外国ノ王トハ殊異開威コキト云コトハ、神ノコトヲ我々カ言ノ業ニカ大御神ヨリ百何十代ニ代セ玉レ奉ケト云フハイカニモ恐多也。ヘトモ、繼體御位ニ於テハ更ニ改替無ケレハ、真ノ生神ニ生座バ、イカニモ一貴ミ尊ネハ成マセヌジヤ。斯ヲ以テ奉戴ト申タノデ御坐ル。戴トハ、此ニイタバクト訓テ、山ノ頂上ヲ嶺ト云ヒ、人ノ天願ヲ頂顛ト云如ク、今戴ノ字モ意ハ同シコトニテ、是ヨリ上タル君ナシ。高キ最頂ニ生座ハ、利吾儕常ニ首ノ上ニ奉ケ戴クヲ奉戴ト云、字書ニ首戴ト有ルモ即チ此意テ御坐ル。朝旨トハ、天子御自ラ諸官員ト共ニ国家ノ事件ヲ會議

遊ハサル、所ヲ朝ト云ヒ、其議論ノ確然テ正ク御布告ニ成タル所ノ御趣意ヲ旨ト云マスジヤ。繼体天皇ノ紀ニ、国命ト有ルハ、今朝旨ノコトテ御坐ル。抑々一天万乗ノ君ニ在テハ四海ヲ吾カ家トシ、億兆ノ民ヲ一家内ノ子供ノ如ク思召サル。故ニ金湯編三、求那跋摩、大帝ヘ勸答ノ文取意一視同仁ト申テ、誰ヲ惡憎、之ヲ親愛ト云、偏頗モ無ク、一樣二親ノ子ヲ撫育如クニ宸慮ヲ煩セラレテ抑出サル、所ノ御布告ナレハ、厚ク意得忝ク思念テ相守ルヲ遵守ト云。本居カ歌二「ときぎく御のりも神のときぎくの御のりも神の御ことにしあればいかでたがはん」ト云ハレタル通り、時々仰出サル、御布告ハ、忝クモ現人神タル天子ノ御詔命ナレハ、自若ズ御神勅テ御坐ルニ因テ、毛髮モ背コトハ成マセヌジヤ。其上ヘ天子ハ吾儕ヲ一子ヲ鞠育ルヤウニ親ク觀意ル、所ヨリ出タル御布告ナレハ、苦害ニ成ルヤウナコトハ無イ筈ジヤト決心シテ、消塵テモ違背スト思惟窺究深ク奉戴テ、我カ身軀ヲ惜スニ働キ、身分相応ノ忠勤ヲ尽ス所ガ、遵守シタル有状ト申スモノデ御坐ル。尤今セシムヘキ事ト仰セラレタハ、人ヨリ我レ先キニ仰出サル、コトヲ能ク相守リ、夫ヨリ

下々愚夫愚婦ニ至ル迄モ洩ル、所ナク、朝旨ノ出ル所ヲ説聞セ、篤ト承領シタ上ヘテ、其通りヲ屹度相守ルヤウニ示諭ノカ、教導者ノ職務ナルヲセシムヘキコトト仰セラレマシタノテ御坐ル。

三章教憲和解 終

跋

大教興廢依レ于レ時存レ于レ人矣、国朝有ニ政教一也、權ニ輿於ニ天孫降臨之時一、正直聖常之教、鼓腹之民無為而化焉、中世儒仏蔓延補レ於ニ国教一、物換星移不レ無ニ流弊一、枝葉繁茂幹瘦根枯、惟縁朝政衰微、霸業強盛、悲矣哉、方今万機一新悉去弊習、文明日新開化漸進、於レ是乎政教復興起叮矣、時哉、其人亦有レ存レ于レ世也、余頃日東遊、偶閱教正増隆所撰教憲和解、筆鋒縱橫弁釈無礙、無事不解無理不通、余先読ニ諸君子弁釈数部一、聊欲レ微レ擧、一玩而閱ニ此和解一、一称三歎隆若于レ後、抑伝道布教有ニ益於ニ齊世一不レ待ニ余言一矣、隆公者黃備人也、覽者莫言、契亦有レ党也、識者或有ニ月

旦一焉

明治六年十二月

美作竺道契題レ于ニ四谷客舎南窓下ニ

予閱ニ隆公所撰ニ章和解並道契師作跋一、語意口交到可
レ謂ニ一白ニ妙一、玩而契師振レ錫而帰、因代書之、時甲
戌第二月也、

教王護国寺住職 中教正日野覚宝印

「教義要宗」 渡辺助信 (明治七年三月)

教義要宗

渡辺助信著

奈流芳於芸校

敬神愛国の旨を体すへき事

敬神トハ、天神地祇ヲ尊奉シ、敬事スルノ義ナリ。凡テ
神ハ虚靈不昧、神変不測ニシテ、天地日月ヲ鎔造シ、万
物ヲ化有シ給ヘル大靈ナリ。故ニ八百万神ト称シテ其数
窮リナク座ス中ニ、無上至尊タル天祖ヲ尊敬スルヲ主ト
ス。初メ天御中主神、高産巢日神、神産巢日神ハ天地未
タ開ケス。所謂混沌虚中浮雲空中ノ何トモ名付ケ難キ時
ヨリ在ス神ナリ。故ニ三柱ノ神ヲ別三神ニシテ、隱身ニ
坐スト云フ。天地剖判ノ後ニハ虚空上天ニ在ス。コレヲ
天神ト云。此空天ヲ天神処居ノ国ト云フ。此御国ハ勝レ
ニ勝レテ清潔殊勝ノ国ナレハ、此国ヲ高天原ト名ク。即
チ地球ナリ。既ニ日月地球、国土神人万物アレハ、必ス
コレヲ主宰スル神ナキコトヲ得ス。依テ天神ノ聖猷妙謀
ヲ以テ、伊邪那岐尊ノ宇豆ノ大御子タル天照皇大神ヲ大
主宰ト定メ、造化生成ノ大宏業ヲ総轄セシメ玉フハ皇大

神ノ御光リ赫々ト美ハシク、天地ノ内ヲ照リ徹テ、地球ニ置クヘキ神ニアラサルヲ以テナリ。コレヲ人世ニ比スレハ、猶皇太神ハ今上皇帝ニシテ、天神ハ太上天皇ノ如シ。コレニ依テ皇太神日球ニ坐シテ、万世一日ノ如ク、六合ヲ照臨シ万物ヲ化育ス。コレ皇太神ヲ無上至尊ト崇敬シ奉ル所以ナリ。然ルニ天日ハ提燈、又燈籠ノ如キモノト説ナス輩アルハ、未タ天津教ノ盛行セサルノ致ス所ニシテ、全ク造化ノ真伝ヲ知ラス。猶究理ノ委シカサルヨリシテノコトナレハ、笑フヘキニモアラス。又憎ムベキニモアラザルナリ。又地球ニ於テモ君主ナケレハ億兆又安ナラス。国家保全ナラサルヨリ、天神天祖深ク神議シ玉ヒテ、天祖ノ御孫邇々杵尊ヲ降シテ天下ノ大君ト定メ給ヒシ時、天祖宝鏡ヲ授ケテ曰ク、吾見コノ宝鏡ヲ視ルコト、猶吾レヲ視ルカ如シ。床ヲ同フシ、殿ヲ共ニシ、以テ齋鏡トナスヘシト。又曰ク、豊葦原ノ千五百秋瑞穂ノ国ハ、コレ吾子孫君タルヘキ地ナリ。汝子就テ治メヨ。宝祚ノ隆ナル当ニ天壤ト窮リナカルヘシト、其神算聖誓ムナシカラス。宝鏡ヲ尊奉シ、万世ノ今ニ巖然トシテ皇太神宮ノ御神体ト祀リ、皇統聯綿トシテ万世

ノ今ニ替ルコトナキハ、専ラ三種ノ神器ノ守護シ玉フ所ナリ。コレヲ以テ歴世ノ天皇ミナ皇祖大神ノ祭祀ヲ以テ皇政ノ第一トシ、天神地祇ヲ総ヘ祭ラセ玉フ。故ニ天下ノ臣民モ神ト皇トノ恩沢ヲ蒙ル所ヲ深ク感戴シテ崇敬ヲ尽スヘシ。天祖ノ皇孫ヲ天下ノ大君ト定メ玉フ時ニ幽顕ノ分ヲ定メテ、皇孫尊ニハ専ラ顕世ノ人道ヲ統治セシメ、幽世ノ神事ハ建速須佐之男尊ノ御子孫大国主神ヲシテ総掌セシメ玉フ。幽世ハ即チ根国底ノ国ナリ。所々ノ産土神ハ各土地ヲ分司シ、氏子ヲ愛護シ、化育ヲ継述シテ皇朝ノ大政ヲ幽ニ助ケ奉ル。故ニ顕幽ノ分ハ神人ノ異アレトモ、幽ヨリ顯ニ応シ、顯ヨリ幽ヲ受ケ、人民ヲ化育シ、万物ヲ蕃息シ、生々ノ功ヲ成スニ至テハ顯幽一致ナリ。コノ広大無際ノ^{マヤ}思沢ニ浴シナカラ敬セスンハ、不敬ノ罪一世ニ止ルノミナラス、無窮ノ罪ヲ醸スト知ラハ、各神ヨリ賜ハル本文固有ノ真心ヲ以テ尊敬シ、神ノ大御心ヲ心トシテ其職ニ従事スルノ外ナカルヘシ。凡ソ神ト人トハ尊卑優劣アレトモ、造化ノ道ハ顯幽同一ニシテ、靈魂ノ帰モマタ神人一致ナリ。人ハ神ノ資本、神界ハ人ノ本世、故ニ倭姫命ハ神魂尊ノ精靈、父母ノ氣ニ入テ生産

ル神ヲ人神ト申ス。吾党ノ体中ニ坐ス神ナリトノ玉フ如ク、天神ハ至誠至仁ニシテ、賦スル所ノ靈魂、一善モ具ラスト云コトナシ。故ニ其本文固有ノ真心ヲ尽シテ善ヲ行ヒ、道ヲ修レハ、其身ハ朽チ果ルトモ、靈魂ハ神界ニ復リテ無窮ノ快樂ヲ受クヘシ。若シコノ本文固有ノ真心ヲ尽サスシテ悪ヲ行ヒ、道ニ背クモノハ假トヒ顯世ノ朝譴ヲ免ルトモ、幽世ハ必ス神明ノ嚴刑ヲ被リ、根ノ国底ノ国ニ逐ヒヤラレテ、永世ノ艱苦ヲ受ルハ必定ナリ。

人々知テ犯ス罪科アリ。知ラスシテ為ス過失アリ。其知テ犯スハ重罪ニシテ、素ヨリ刑罰ヲ免ル所ナシト雖トモ、先非ヲ悔悟シ、善心ニ立帰リ、自訴謝罪スル時ハ朝廷モ刑律ノ等ヲ減シ、神明モ重罰ヲ輕罰ニ換ヘ玉フ。又知ラスシテ為ス過失ハ其顯レタルハ過失律アリ。幽レタルハ拔除式アリ。輕罪細過ト雖トモ、累積スル時ハ、終ニ重罪大過ニモ至ルヘシ。過罪ハ改ルニ憚ル事ナク、先非ヲ悟ラハ、速ニ正善ニ立帰リ、自訴拔除シハラクモ怠ルコト勿レ。悪事ヲ為シテ罰ナキモ、吾心ニ快シトセサルハ人情ナリ。此心程人ノ能ク知ルモノハナシ。耳目口鼻ハ相見サレハ、或ハ知ラス。心ニ至テハ一見セスト雖トモ、

名ヲ好ミ、利ヲ好ミ、善ヲ好ミ、惡ヲ好ムノ類ヒ、一トシテ人目ニ逃ル、所ナシ。若シ一時機變ノ巧ヲ以テ姦惡ヲ掩フモ、天下万世ノ公論、誰レカコレヲ隱スコトヲ得ン。人スラスノ如シ。況ヤ神明ヲヤ。賞罰ノ緩急遲速ハアレトモ、一毫ノ善モ、一毫ノ惡モ、禍福ノ報応ハ終ニ遁ルコト能ハス。故ニ人為ニ惡於顯明之地一則帝皇誅レ之為ニ惡於幽冥ノ地一則鬼神罰レ之為レ善護レ福亦同レ之ト。倭姬命世紀纂疏ニ云ガ如シ。各能ク此理ヲ弁ヘ、心ヲ正フシ、身ヲ修メ、神明ヲ畏敬シテ善ヲ積ミ、徳ヲ累ネ、密房暗室ニ在テモ吾心ニ当然ト思ヘルモノヲ行ヒ、衆人ノ視聽スルトコロノ地位ニ在テモ、吾心ニ是ナリト許セルモノヲ行フハ職ナリ。是非曲直ヲ明ニスルハ神ニアリテ、一時モ忽セニセス、昼ハ天照太神吾カ善惡ノ仕業ヲ^ミ秘ミ、夜ハ月讀尊吾カ善惡ノ所作ヲ^ミ眊ミ玉フ。己レカ面象ノ好醜ハ鏡ニ向ハサレハ知り難ケレトモ、心ノ善惡ハ神明能ク常ニ知シ食ス理ヲ能ク弁フヘシ。抑吾食ノ所ノ穀ハ、天祖ノ頒チ玉フ齋庭ノ稻穗ナリ。又服スル所ノ衣ハ、天祖ノ賜フ機殿ノ繭ナリ。故ニ古ヨリ大嘗祭アリ。新嘗祭アリ。大嘗ノ歲ハ予シメ由^ユ基^キ主^ス紀^キノ国郡ヲ定

メ、稲実ヲ遣シ、田ニ臨ンテ穗ヲ拔キ、以テ供御ノ飯トス。其飯ハ祭ニ臨ミ、春キ炊キ天皇親ヲ嘗殿ニ染盛ヲ奉シテコレヲ薦メ玉フ。其幣ハ繡服ヒキヌスツク荒服以テ奉ス。新嘗祭ハ歳々コレヲ行フ。其儀大嘗祭ノ式ノ如シ。又九月神衣祭アリ。神衣ヲ皇太神ニ奉ス。コレミナ天祖嘉穀ヲ頒チ、養蚕ヲ教ヘ玉フ徳ニ報シ、恩ニ謝スル所以ナリ。其他大山祇ノ国土ヲ鎮メ、級長津彦ノ風ヲ守リ、匂々廻馳ノ木ヲ司リ、保食ノ稲ヲ司リ玉フ功勞ヲ知ラスンハアルヘカラス。苟モコレヲ知ラハ、誰レカ誠敬ヲ尽サ、ラン。今天下ノ民、ミナ衣食住ノ賜ヲ受用スル。己レ一身ノミナラス、百世ノ祖ヨリ百世ノ孫ニ至ルマテ幾百万、世ミナ天祖ノ洪恩ヲ被ル。豈万分一ヲ敬報セサランヤ。コレヲ以テ、古事記ノ序ニ敬神祇トアリ。桓武天皇ハ掃ハ掃レ社敬レ神トノ玉フ。敬トハ、主一無敵ノ謂ナリ。

愛国トハ、自国ヲ愛慕スルノ義ニシテ、天下ノ民、各其土ニ依テ生ヲ託シ、命ヲ保ツベキ所ヲ愛スルハ、固ヨリ人情ノ誠ナレハ、一己ノ私ニアラス。且ツ国ノ本ハ人ニシテ、人ノ本ハ君ナレハ、国ヲ愛スルハ君ヲ愛スル所以ナリ。万国悉ク天神天祖ノ鎔造ニシテ、其人民モミナ天

神天祖ノ愛育ニ洩ルコトナケレハ、全地球中固ヨリ同一ナル所以ナレトモ、事物ニ自他ノ差別アレハ、邦国ニモ各自愛ノ心ナキ能ハス。外人タモ其本国ヲ愛慕セサルハナシ。況ヤ皇国ノ人民ハ天神天祖ノ極ヲ立テ、統ヲ垂レ、列聖相承ケ相繼キ、億万歳交替ナク、万国比類ノ最上国ニ生長シテアレハ、自国ヲ愛スヘキノ本ヲ明ニシテ、皇国ノ皇国タル所以ヲ察シ、外国モ一其地球中ノ邦ナレハ、決シテ輕憎スルノ心ナク、天神天祖ノ造化シ玉フ大無辺ノ神意ヲ奉体シ、各其本職ヲ勉務スルノ外ナカルベシ。其職ヲ務ルトハ、凡ソ仕官シタルモノハ億兆ノ稽首ヲシテ政令ヲ能ク遵守シ、其職業ヲ励精シ、以テ生死楽域ニ至ラシメ、邦家ヲ富強ニシ、皇威ヲ輝張シ、内外諸邦ノ隔テナク、全地球中兄弟ノ如ク信ヲ篤フシ、交ヲ厚フシ、以テ天祖天孫ノ威徳ヲ教示シ、天ニ二大主宰ナク、地ニ二大君主ナキ理ヲ明ニシ、以テ皇国ヲシテ、真ニ万邦ノ君上国タラシメンコトヲ期シテ職ヲ奉スヘシ。我天皇ハ高天原ニマシマス一大主宰、皇太神ノ皇孫ニシテ、万世億兆ノ君主トシテ瑞穂国ニ座セトモ、海外絶域、古往今来、悉皆皇太神ノ造化ニ漏ルモノナケレハ、天皇

ノ所有ニアラサル理ナシ。故ニ地球上ニアルモノ太陽ノ光リヲ蒙ラサルトキハ生育スル能ハス。誰レカ日神ニ背クコトヲ得ンヤ。又其皇孫タル皇上ニ悖ルコトヲ得ンヤ。天皇ヲ皇孫、或ハ現神ト尊フ。故ニ我国ヲ神州、又ハ皇国ト称スルハ、ミナ此義ナリ。抑国ヲ愛スルハ家ヲ愛スルカ如シ。家ヲ愛スルモノハ架漏牽補、以テ一日ノ計ヲナサス。父子兄弟、同心協力、瑣細ナルコトト雖トモ、決シテ忽セニセス、各自ヲ其心思ヲ尽シテ有益ヲ考ヘ、冗費ヲ省キ、柱ヲ改メ、礎ヲ重ネ、遂ニ一家ヲ起スニ至ル。若シ家ニ不孝ノ子、不順ノ弟アルトキハ、父兄独リ桔槔經營スルトモ歳入歳出ヲ償フ能ハサルノミナラス、終ニ産ヲ敗リ、家ヲ類スニ至ル。方今皇政維新、百度皆挙ル時ニ当リ、因循姑息ニシテ知識ヲ開クコトヲ欲セス、游惰疎放ニシテ地方ヲ尽スコトヲ思ハサルハ、宛モ家ニ不孝ノ子、不順ノ弟アルカ如シ。各ヨクコレヲ思ヒ、自ラ已レヲ改化スルコトニ着意セハ、容易ク一家ヲ改化スルコトヲ得ヘシ。一家一國ノ事ヲ変易スルハ、自己ノ惡習十分ノ一ヲ改変スルヨリハ遙カニ易シ。斯ノ処ク次第ニ拡充セハ、全地球ヲモ改変シ、万国ヲシテ皇孫ノ皇威

ヲ仰カシムルニ至ラン。コレ我国ヲ愛シ、君ヲ愛スル所以ナリ。故ニ持統天皇ノ詔ニ、尊朝愛國トノ玉ヒ、藤原基経ノ上表ニ愛國忠謀ト云。ミナ国ヲ思フノ切ナルモノニテ、所謂親至テ心ニ結フヲ愛ト云フ意ナリ。

天理人道を明にすへき事

天理人道ヲ明ニスルトハ、天地造化ノ神理ト人間日用ノ本道ヲ昭明ニスルノ義ナリ。天地造化ノ神理ハ宇宙ノ万物、悉此理ヲ具ヘサルモノナシ。伊邪那岐、伊邪那美尊ノ神業モ造化ノ妙理ニ洩ル所ナキ如ク、五元ノ神モ火ハ風ニ依テ勢ヲ増シ、金ハ火ニ依テ用ヲ為シ、火ヲ鎮ムルハ水土ニシクハナク、火土ノ靈、配合アリテ雅産靈神ヲ生ミ、此神ノ御子保食神ノ生坐^{アレス}シモ、火土ノ交感ニ依テ五穀ノ化出ル天理ト聞ユ。故ニ古事記ノ序ニ来ニ二氣之正一齊ニ五行之序一設ニ神理一以獎レ俗敷ニ英風一以弘レ國ト云フ。コレ天理ニ循フヘキ道理ヲ明スナリ。注ニ二氣ハ陰陽ヲ謂フ。君ノ政ヨロシケレハ陰陽五行ノ運ヒ、正クシテ四時ノ氣候紊レス。神理ハ神妙ノ道理ナリ。俗ヲ奨ムトハ、勸メ導キテ風俗ヲヨク為スヲ云フ。英風ハ

英聖ノ風教ナリトアリ。サレハ天理ヲ知ラント要セハ、先ツ此二氣ノ氣ヲ門シ柵トナスヘシ。宇宙ハ唯一氣ノミ。分レテ陰陽二氣トナリ、天地トナリ、五行トナリ、日月星辰トナリ、山川河海トナリ、人トナリ、禽獸トナリ、草木虫魚トナリ、万品齊シカラズト雖トモ、其実ハ氣ノ一字ヲ出テス。氣凝レハ忽チ形ヲ現シ、氣散スレハ、忽チ消滅ス。屈伸變化窮ルコトナク、消息盈虚測ルヘカラス。且ツ氣ニ精粗アリ。粗ナルモノハ人ミナコレヲ知レトモ、其精ナルモノハ知り易カラス。所謂神ト云ヒ、魂ト云ヒ、精心知覺ト云フノ類、靈妙自在ニシテ擬議ノ及ハサル所ナレトモ、ミナ氣ノ精ナリ。理ハ此氣ヲ離レテ別物アルニ非ス。氣ニ着テ一定、変セサルモノヲ理ト云。コレ氣ノ主宰トナリテ枢紐トナルモノニテ、氣ノ氣タル所以ハ全ク此理ヲ以テナリ。氣ハ人ノ身ノ如ク、理ハ人ノ心ノ如シ。水ノ潤ヒ、火ノ燃ルハ氣ナリ。其燃テ潤スコトナク、潤テ燃ルコトナキハ理ナリ。柳ノ緑花ノ紅ナルハ氣ナリ。柳紅ナラス。花緑ナラサルハ理ナリ。鳥ノ日ニ緇セサレトモ、黒ク鶯ノ日ニ浴セサレトモ、白ク鶴ノ脛長ク、鴨ノ足短キハ氣ナリ。古今一定シテ紊レサ

ルハ理ナリ。人心ニ就テ云ヘハ、事ニ触レ、境ニ対シ、喜怒哀楽ノ發動スルハ氣ナリ。順ニ喜ヒ、逆ニ哀シムコト、人々違ハサルモノハ理ナリ。故ニ天神天祖、其天理ノ妙用ニ則リテ、コレカ極ヲ立テ、コレガ教ヲナシ、群類ヲ導テ相軋まじルコトナク、相戾ルコトナク、各其分ノ宜キニ適ス。コレヲ天然ノ天津理ト云。人モシ此理ニ戾リテ行ヘハ天地モ容レズ、神明モ亨ケズ、災害並生シテ逃ル、所ナキニ至ラン。

次ニ人道トハ、君ハ天ナリ、臣ハ地ナリ。君コレヲ言ヘハ、臣コレヲ承ケ、上ミコレヲ行ヘハ下モコレニ倣フ。父ハ慈ニシテ子ハ孝ナリ。夫ハ剛正ニシテ婦ハ貞順ナリ。兄弟ニ長幼ノ序アリ。朋友ニ欺カサルノ信アリ。此五倫ハ人道ノ常ニシテ、彝倫ノ乱ルヘカラサルモノナリ。故ニ日本書記マヤニ大神勅ニ天兒屋命太玉命一惟爾オノナリシニ神ヲシテ皇孫ニ配侍シ玉フハ君臣ノ基元ニシテ、天下万世各其祖ノ志ヲ継ギ、其家ノ職ヲ主トシテ一向ニ天皇ヲ仰テ忠誠ヲ尽スハ、天地ノ初ヨリ天神ノ定メ玉ヘル君臣ノ常分ナリ。齋鏡授与ノ神勅ハ、親子ハ一氣ノ分体ニシテ、胚胎ヨリ成長ニ至ルマテ、其恩ノ高大ナルコト拳テ言フヘ

万善コレニ従フ。故ニ神武天皇ハ齋鏡ノ詔ヲ奉シ、靈時ヲ立テ、皇祖天神ヲ祭ルヲ以テ祀先ノ第一トス。爾來列聖実鏡ヲ仰キ、影ヲ其中ニ見ル。見ル所ノモノハ天祖ノ遺体ニシテ視ル。猶天祖ヲ視ルカ如シ。コ、ニ於テ盥薦ノ間タ、神人相感シ、以テ止ムヘカラサレハ、終ヲ慎ミ遠ヲ追フ。豈止ムコトヲ得ンヤ。既ニ天祖ノ遺体ヲ以テ天祖ノ天業ヲ継述シ玉ヘハ、群臣ノ皇孫ヲ視ルモ、猶天祖ヲ視ルカ如シ。其情ノ自然ニ發スルモノ、豈止ムコトヲ得ンヤ。コ、ニ於テ孝敬ノ心、父以テ子ニ伝ヘ、子以テ孫ニ伝ヘ、志ヲ継キ、事ヲ述ヘ、千百世ト雖トモ一日ノ如ク、孝以テ忠ヲ君ニ移シ、忠以テ其先志ヲ奉スルハ皇國固有ノ人道、所謂天津教ナリ。

皇上を奉載し朝旨を遵守せしむへき事

皇上トハ、皇帝主上ヲ中略スレハ皇上ノ目ヲ為ス。コレ則チ上ミ一人ヲ謂ナリ。

奉戴スルトハ、皇孫タル天皇ヲ尊奉敬事スル義ナリ。我歴代ノ天皇ハ、ミナ高天原ノ大主宰タル天照皇太神ノ御正胤ニシテ、神代ノ昔シ、太神ノ御孫ヲ日向國高千穂ノ

峯ニ降シ、大日本國ノ大君主ト定メ玉ヒシヨリ、皇統聯綿トシテ日月ト共ニ万世變ルコトナク、既ニ二百二十有余代ノ今日ニ至ルト雖トモ、継体差フコトナク、天津日嗣ヲ知食シ、國土人民ヲ統治メ玉フハ、天神天祖ノ神慮ニ出テ、地球上ニ比類ナキ所ナレハ、六大洲中ノ無上至尊タルコト明ナリ。コレヲ以テ古事記伝ニ、抑吾カ天皇尊ハ日ノ神ノ御子ト申テ、賤シキ國々ノ王ドモ、ト等ナミニハ坐マサス。此御國ヲ生成玉ヘリシ神祖命ノ授玉ヘル皇統ニ坐マシテ、天地ノハシメヨリ大御食國ト定マリタル天下ニシテ、善ク坐サムモ、悪ク坐サムモ、側ヨリ何ヒ議奉ルヘキコト能ハス。天地ノアル極ミ、日月ノ照ス限リハ幾万代ヲ経トモ、動キ坐サヌ大君ニマセリト云ヘリ。サレハ普天ノ下、率土ノ濱、ミナコノ無上至尊ノ臣民ニ非ルハナシ。既ニ王臣ニシテ王土ニ住ムモノ、無上至尊ノ辱モ我等億兆ヲ安眠逸居セシメン為ニ、每朝沐浴シ、石階ニ上リ、天祖ヲ拝シ、且又歲月ニ大忌、風神、鎮華、鎮火ノ諸祭ヲ為シ、災ヲ禳ヒ、福ヲ祈ル所以ヲ厚ク奉戴セスンハアルヘカラス。抑人ハ未生ノ前ヨリ皇恩ニ生長シ、胎内ニテ吞シ乳ヨリ、産湯衣ヨリ食フ所

ノ穀、服スル所ノ衣、死シテ葬ル所ノ地マテ、ミナ天朝ノ地ニ因ラサルハナク、耕稼陶漁ヨリ車ヲ推シ、舟ヲ行ルマテ、ミナ天朝ノ恩沢ニ依ラサレハ一日ノ生活モ得ヘカラス。其儲クル所ノ金錢、其用ル所ノ楮幣、ミナ天朝ノ制度ナラサルハナシ。身体髮膚ハ父母ノ賜フ所ト雖トモ、父母祖考ヨリ、ミナ皇恩ニ生長スル所ナレハ、頂ヲ摩テ踵ニ至ルマテ、ミナ皇上ノ物ニ非ルハナシ。瞑目シテコノ身、根本ノ来由ヲ思ヘハ、悪シソ皇上ヲ奉戴スル心起ラサランヤ。此心ヲ以テ国家ヲ富強ニシ、億兆ヲ安全ナラシメ玉ハンカ為ニ立玉ヘル政令ニ戻ラス。悉皆遵奉堅守スルヲ朝旨ヲ遵守セシムルト云。

朝旨トハ勅詔及ヒ御布令等ヲ指ス。サスレハ皇上ノ言ハ人ニ就キ、朝旨ノ言ハ法ニ就ク。人法ノ差ト云フヘキカ。而シテ朝旨ヲ遵守スルハ、即チ皇上ヲ奉戴スルナリト云義ヲモ弁得スヘシ。方令文化日ニ進ミ、海外ノ政刑、兵陣、天文地理、律、度量衡、器械、医薬等ノ芸道ヲ交ヘ取テ皇猷ヲ潤色シ、天下ヲ經綸シ玉フ所ナレハ、出ル所ノ政令ハミナ天皇ノ叡慮ナリ。形勢時運ノ変ニ随ヒ、厚生利用ノ方ヲ示スニ、制度ノ損益アレトモ、天地ノ大道

ハ終古一理ナレハ、當時ノ朝旨ヲ遵守スルハ、即チ皇上ヲ奉戴スル所以ナリ。誰レカコレニ従事セザラン。夫レ政ハ国家安全、万民保全、各ソノ職業ヲ勉勵セシムルノ大基礎ニシテ、天皇親ラコレヲ総知シ玉フハ、即チ天祖ノ神訓ヲ奉シ、天職ヲ尽シ玉フ所ニシテ、政府ハ其本官ナリ。諸省使府県ハミナ此天職ヲ補翼シテ大政ヲ分掌スル所ナレハ、悉皆遵守セスンハアルヘカラス。斯ノ如ク天理人道ニ悖ラス、政令ヲ奉体シ、其職業ヲ尽スモノハ、即チ真ノ忠臣孝子ニシテ、現世死後共ニ神皇ノ愛憐シ玉フコト疑ヒナカルヘシ。若シ朝旨ヲ奉体セサルモノハ、所謂違勅ニシテ、天神地祇ノ御心ニ悖ルモノナレハ、遠ク海外ニ放逐シ、絶域ニ流竄セラレ、生テハ不忠不孝ノ人トナリ、悪名ヲ千載ニ残シ、死シテ其靈魂直チニ高天原ニ帰ルコト能ハズ。神祇ノ冥罰免レ難シ。或ハ容チノミヲ以テ朝旨ニ従フモノハ、娼妓ノ客ニ接スル如クニテ、其敬未タ情ナラス、其信未タ実ナラス。或ハ旧習ヲ株守シテ日新ノ政令ヲ厭ヒ、悒々トシテ世ニ処スルモノ、宛モ再醮ノ婦ノ故夫ヲ着恋シテ紡績懶キカ如シ。故ニ頃日ノ大御詔リニモ、方今國ノ未タ開ケサル人民ヲシテ、朕

ガ意ノ在ル所口ヲ信奉セシムルヤトノ玉ヘハ、未タ国民
復古ノ美拳ヲ樂シマス、万世不拔ノ国体ヲ弁知セサル者
アルハ、所謂布教ノ浹洽ナラサルノ致ス所ナリ。サレハ
布教ハ今日ノ緊要、皇威ヲ隆盛ニシ、国体ヲ堅固ニスル
ノ急務ナリ。大尾

『開化の本』初編〔抄出〕 西村兼文（明治七年四月）

○教法の弁

凡そ教法の事たるや、西洋の各国皆各種の尊崇する所ありて、其政治人情風俗に關係するところ少なからず。其最も開化に遠き奥蝦夷の如き国といへども、必ず尊崇する神を祭らざる無し。蓋し人間五常の道もいまだ開けざる愚なる国といへども、其触るところに感じて、人力の及ばざる所に神ある事をおもひ、日月雷電及び山林水火等を祭り、或は神仏の像を作りこれを捧る。故に各国皆教法は太古よりありて、其始めは皆一つなりといへども、其伝ふる事の久しきにより、種々の法式をなし、其内に力ちからあるの人出るときは、書を著し説をたて、これを文飾し、終には一種の教法を開き、或は従前の教へを看破して別一派をわかち、遂に其種類のはなはだ多きに到る。いかなる野蠻といへども教法のなき国土はあらざるなり。抑仏教の我国に来るや、はじめはた、一法なりしも年久しく行はれ、伝教。弘法。親鸞、榮西、日蓮等の輩、種類多般に分派なしけるなり。今や七宗に纏

められ、同一に帰し、相互に親しみ、積年来仇敵の思ひを散し、加ふるに神道をもつてし、同心協力大に説教の大典を挙げられ、三則の教憲を普く天下に広布せられ、頑愚の衆庶をして良民たらしめんと、神導職を設けられ、抑三則の次第たるや、第一章の敬神愛国の旨を体すべきとは、夫天地開闢て皇孫光臨より以来紹運すでに百二十三代、積年二千五百三十三年、連々綿々として万民綏撫をなし給ふ。此本源諸神より出て、祖先以来其賜物を受ける。又人の此世にあるや、天神地祇の此身体を造り、此神魂を授けたまへる鴻恩より大ひなるなく、此重き神沢に浴し、上下安穩に斯く泰平の御代に安居する、甚深の恩徳を感謝し奉り、敬神の誠実を尽し、神の御蔭を朝夕に仰き、また天照皇大御神の四海万国を照臨したまふ神恩より公なるはなく、諸神の衣食住の道を授けたまへる恩より懇なるはなし。此天照皇大御神をはじめ、諸神の鎮座すこの国土に安住すれば、此国土を大切愛護して保育の鴻恩を報じ奉るべく、愛国といふことは、上は皇上より下士庶人にいたるまで、各自其分相応の愛国ありて、詰り何事によらず、邦家の御為に為

す事は、ことごとく愛国の実なるものなり。

第二章に天理人道を明にすべしとは、天理と人道はもと一体なるものにて、人道を明にすれば、自然天理に明なるべし。天理は即神理にて王道といふも同じ意なり。人道は五倫五常の道をいふ。君臣の義、父子の親、夫婦の愛、皆人道の主要なり。

第三章に皇上を奉戴し、朝旨を遵奉せしむべきとは、皇は神代よりの皇にて、万古一日の如く、天照皇大御神の御血統を受嗣ぎたまひ、彼異邦、毎年主を易ふるの国と世を同ふして語るべきにあらず。比類なき御神胤なれば戴き奉らずんばあるへからざるなり。朝旨は所謂大政官の御布告にて、これ人民を綏撫したまふ法令なれば、恐々謹々て遵守すべき御事なり。

開化の本 初編 終